

Musashi Paint Report 2024

武蔵塗料のパーパス

色と機能で世界を豊かに

Contents

Chapter 1

経営とサステナビリティ

トップコミットメント	03
武蔵塗料とは	07
経営理念とCSR	11
CSR活動への取り組み	14
～CSRのその先に～ サステナブルな価値創造をめざす	17

Chapter 2

攻めのCSR活動 ～社会の期待に応える～

環境重視の商品創出	19
社会とのコミュニティによる価値創造	
未来社会の産業構造に変革をもたらせる製品	23
地域社会貢献	25
従業員のウェルビーイングの追求	29

Chapter 3

守りのCSR活動 ～企業としての責任～

人権への取り組み	31
労働安全衛生への取り組み	33
環境保全への取り組み	35
品質・安全(化学物質管理)への取り組み	41
コンプライアンスへの取り組み	43
リスクマネジメントへの取り組み	44
情報セキュリティへの取り組み	45
経営目標とCSR・SDGs	47
会社情報 組織図/会社概要	48



musashi paint

● 発行にあたって

本報告書はステークホルダーの皆様は武蔵塗料グループの企業価値を総合的に判断いただくために発行しました。
編集にあたっては説明責任と情報開示を基本原則として、各取り組みの実績をありのまま開示し、ステークホルダーの皆様との意義あるコミュニケーションツールとすることを第一に考えました。

● 対象範囲

武蔵塗料グループの企業活動を対象としています。

● 対象期間

主に2023年1月1日～12月31日(2023年度)。一部、継続的な取り組みや特記事項については対象期間外の記事を含んでいます。

● 参考ガイドライン

GRIサステナビリティ・レポート・スタンダード 2016/2018
環境省「環境報告ガイドライン2018年版」

トップコミットメント

人が生きる社会に、
変化と創造、色と機能を追求し、
未来を明るく塗り変えたい。

代表取締役社長
福井 裕美子



塗料の可能性を力として

塗料は、色によって外観を美しく見せることに加えて、保護や断熱などさまざまな機能をもたせることが可能です。市場では、高機能で多彩な色への需要の広がりや環境意識の高まりがあります。それは、塗料がもたらす効果に、誰もが期待を寄せているからだと思います。

私たち武蔵塗料は、塗膜についての専門的な知識と技術を持ったプロ集団です。1958年の創業以来、木工用塗料から始まり、プラスチック塗料分野の専門家として成長し、「色と機能の追求」を強みとして業界をリードしてきました。私たちが創り出す10万色以上の塗料製品は、自動車内装部品、情報通信機器・光学機器・電気製品などのさまざまな分野・用途で使用されており、世界各国のお客様に高い評価をいただいております。

つねにお客様に寄り添い、製品のアイデアを膨らませ、

オリジナリティを形にしていく開発姿勢は、武蔵塗料ならではの優れた特長です。新製品の創出には困難さや技術的課題が立ちはだかりますが、私たちはそれを乗り越え、商品(製品とサービス)を通じてワクワクするような感動をお客様にご提供することをめざします。

塗料の色と機能がもたらす無限の組み合わせは、塗料の用途を広げ、私たちの事業を成長させてきました。私たちのパーパス(存在意義)である「色と機能で世界を豊かに」は、企業活動の未来を照らす言葉として策定しています。そして「世界を豊かに」は、複雑多様な社会課題に立ち向かうことで実現するのだと最近強く感じます。私たちは武蔵塗料らしい自社の持つ能力・強みを発揮し、社会課題の解決に貢献し、長期的な企業価値向上をめざします。



植物由来の塗料製品

Corporate Purpose 武蔵塗料ホールディングスのパーパス

色と機能で世界を豊かに

トップコミットメント

サステナブル経営は、 自分を好きになることから始まる。

事業の仕組みで社会課題解決へ

私は2006年に中国の地方にある子会社に配属され、駐在した経験があります。そこで貧困や人権、廃棄物処理に関わる問題に遭遇しました。自分の目の前で行われていることにショックを受け、帰国後すぐにアジアの児童買春問題に取り組むNPOに参加をし、海外の孤児院の現場を見に行きました。これは当社の社会貢献活動のきっかけとなった出来事ですが、こうした貧困や人権問題は、今では「SDGs」の1番目に取り上げられる全世界的に解決すべきテーマとなりました。また、化学物質の不法廃棄など人が生きる地球環境を健康な状態で維持しながら経済活動を行う重要性についても深く考えました。

地域に拠点を創り、雇用を創出し、正しい考え方を教育することは、事業を通じてできる社会貢献だと思います。塗料という製品は、世界中にニーズがあり、どの地域にも普及しています。このことから塗料製品の製造・販売は、地域の経済的な仕組みを整える役割を果たせるものと考えます。現在、武蔵塗料グループは、アジア、ヨーロッパ、アメリカの11カ国にネットワークを展開していますが、今後もできうる限り各地域に拠点を作り、雇用の創出や地域の活性化に貢献したいと考えています。



中国駐在時(左端が福井)



入間工場

社会をより良くするために挑戦する

商品開発や生産に関わるプロジェクト活動を成功させるには、自社の利益だけを追求するのではなく、常に相手と従業員のことを考えたものづくりを行うことが大切です。そして、より良い商品が開発できる可能性に向けて仲間と共に挑戦していく。当社は、開発メンバーに挑戦する気持ちがある限り、資金不足を理由に開発を止めさせることはありません。

その成功事例が「バイオペイント」の開発です。当社は、2008年より植物由来の再生可能資源を利用したプロダクト開発をヨーロッパのお客様と共に継続してきました。バイオマスなど環境に配慮した塗料の開発は持続可能な社会の実現に貢献するソリューションとして市場から注目されています。そんな中で、植物由来の「バイオペイント」を市場に投入しました。「バイオペイント」は、石油資源の削減という環境への配慮を促進します。この商品化は容易なものではありませんでしたが、開発メンバーが情熱を持って挑戦し続けて成し遂げることができました。



サステナビリティ(持続可能性)のために、楽しく活動する

課題解決に向けて、意欲を持ち続けることは大変です。どうすれば可能でしょうか。

私は日頃から「正しいことを楽しくやろう」と従業員の皆さんに言っています。楽しくなければ続かない、そして、その楽しさは「やっている自分を好きな気持ち」から来るものだと思います。自分のやっていることが好きであり、だから自分の延長線上にある仕事を楽しめる。楽しく仕事を一緒にやっているから仲間が好きになり、その先にいるお客様も好きになる。武蔵塗料は、創業時から変わらず自分を愛し、仲間を愛し、お客様を愛し、会社を愛し、社会を愛する気持ちを大切にしてきました。だから、独自の発想で社会に貢献できる商品を生み出せる。これを継続する。すなわちサステナビリティだと思います。

好きだから続ける、諦めずに成功するまで続けることが、私のめざすサステナブル経営です。好きなことに挑戦したはいいけど失敗することもあるかもしれませんが、しかし諦めずに、最後までやりきったときに、自分のことも、会社のことも、お客様のことも、ますます好きになっていくと思います。この継続がサステナブル経営の軸になります。



環境配慮製品『バイオペイント』“塗料が環境の歯車を回す”

人との連携、ビジネスの共創で世界を豊かに

武蔵塗料は、色と機能性を創り出すことが得意な会社です。世界で生産・販売される当社の商品は多くの製造業から支持され、電機や自動車、ゲーム機器などに使用されています。業界屈指の技術力を有する一方で、まだまだ武蔵塗料を知らない人も多く、そのような方々に知ってもらうことで社会にさらに貢献できると考えています。優れた製品を開発すること、魅力的な商品を創り出すことは違います。いかに武蔵塗料らしさをプラスできるか、その「らしさ」の創造こそ当社の存在理由であり、社会課題の解決に貢献できる重要なポイントになると思います。

循環型社会や脱炭素社会の実現、貧困や差別のない社会への貢献など、“正しいこと”を続けるのは大変手間がかかります。それらを楽しくやろうとするサステナブル経営への道りは一般的ではないでしょう。色と機能を使って、世界を豊かにするための対処すべき課題の特定や解決に向けた対策には組織の横断的な連携が必要です。加えて外部との「共創」も重要な取り組みとなります。社会に大きな変化を起こすには、当社単独では考えられません。

武蔵塗料グループは、グローバルネットワークを駆使し、他のメーカーと一緒に協働し、新しい価値を創造し続け、将来の世代に愛される会社となるよう、サステナビリティを追求していきます。やると決めたら最後までやるのが私たちの持ち味。必ず到達できるよう、笑顔で、楽しく、意志をもってやり遂げたいと思います。

武蔵塗料とは

HISTORY

musashi paint group

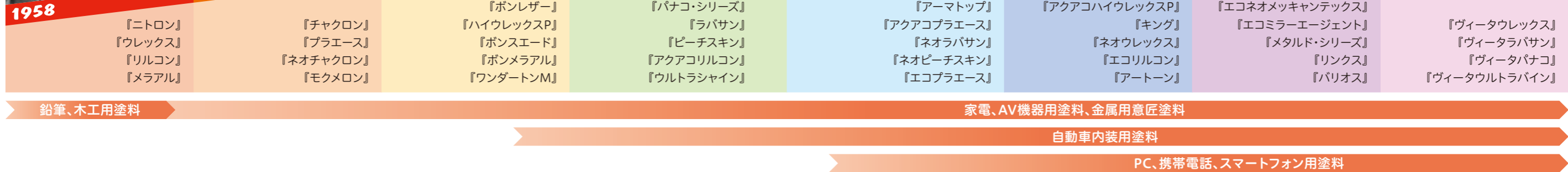
武蔵塗料グループの歩みと強み

1958年の創業以来、当社グループはずっとお客様に寄り添い続けてきました。難題に直面するたびに新しい技術で乗り越える。どんな小さな仕事も手を抜くことなく、どんな困難な要求にも応え続けていく。その積み重ねの中で、塗料業界においてユニークで確固たる地位を確立してきました。

沿革



創業者
福井 敏雄



- 1958** 武蔵塗料株式会社、東京都葛飾区小菅町で創業。
- 1997** マレーシア武蔵塗料(KL)設立。
- 1999** 中山武蔵塗料有限公司設立。武蔵塗料(香港)有限公司設立。
- 2000** 韓国武蔵塗料株式会社設立。
- 2002** 蘇州武蔵塗料有限公司設立。マレーシア武蔵塗料(JB)設立。
- 2003** 武蔵塗料(昆山)有限公司設立。武蔵塗料国際(香港)有限公司設立。
- 2004** 天津武蔵塗料有限公司設立。武蔵塗料貿易(上海)有限公司設立。武蔵塗料北京色彩開発センター設立。

- 2005** 武蔵塗料国際株式会社設立。武蔵統括塗料貿易(上海)有限公司設立。
- 2006** ハンガリー武蔵塗料設立。カリフォルニア武蔵塗料設立。武蔵塗料上海色彩開発センター設立。
- 2008** 武蔵塗料(タイランド)設立。ベトナム武蔵塗料設立。
- 2009** 武蔵塗料研究開発センター設立。
- 2010** 武蔵塗料(インド)設立。
- 2011** 武蔵塗料製造(タイランド)設立。U.S.ペイントが武蔵塗料グループに加入。
- 2014** シンガポール武蔵塗料設立。
- 2015** 武蔵塗料ホールディングス株式会社に商号変更。
- 2019** インドネシア武蔵塗料設立。ベトナム武蔵塗料(ハノイ)設立。
- 2020** 重慶武蔵塗料有限公司設立。
- 2021** 武蔵(東莞)新材料有限公司設立。

強み

1. 調色技術力

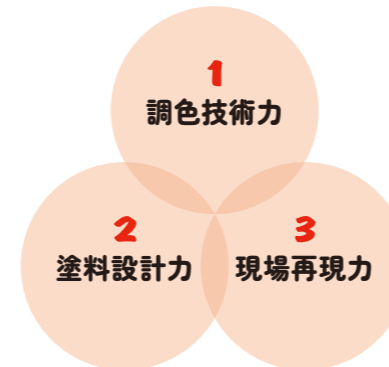
- ・創り出せない色はない、多彩な原材料でイメージ通りの色彩を表現します
- ・新色の色出しはすべてお客様のご要望に沿って形にします

2. 塗料設計力

- ・色の再現性、塗装のしやすさを追求した塗料設計をします
- ・お客様ご指定素材に対して、機能と意匠を実現する塗料設計をします
- ・国内外化学品規制に基づき、安全性を担保した塗料設計をします

3. 現場再現力

- ・世界各国の現地ニーズに合致した塗料を、現地で提供する事が可能です
- ・各種トラブル(塗装時不具合等)を解決し、量産性を向上させることができます



きめ細やかな対応力

多品種少量生産によるオーダーメイド
この対応力が多くのお客様から支持をいただいています

私たちはお客様のご期待に100%お応えし、120%のご満足を提供し続けます

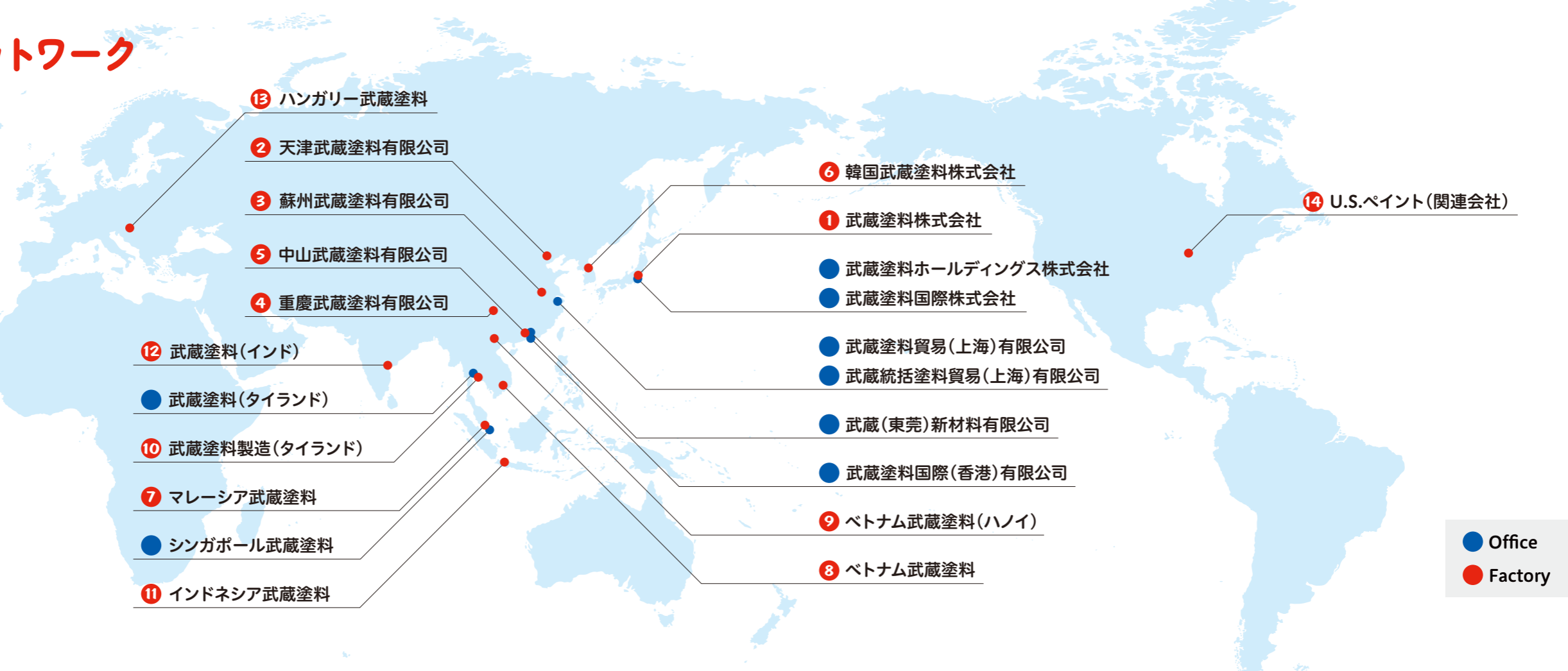
調色技術とカラー提案により、塗料ならではの魅力をお客様の製品に付加できるよう努めています

武蔵塗料とは

musashi paint group GLOBAL NETWORK

グループネットワーク

当社グループは世界11カ国にグループネットワークを有する企業です。世界中に同品質の製品やサービスを提供しています。また、技術部門を有する拠点では、お客様やお客様の国の実情に合わせた開発を行っています。



1 武蔵塗料株式会社
敷地面積：10,000 m²
従業員数：164名
生産能力：660t / 月



2 天津武蔵塗料有限公司
敷地面積：28,500 m²
従業員数：95名
生産能力：890t / 月



3 蘇州武蔵塗料有限公司
敷地面積：16,500 m²
従業員数：128名
生産能力：530t / 月



4 重慶武蔵塗料有限公司
敷地面積：60,000 m²
従業員数：31名
生産能力：480t / 月



5 中山武蔵塗料有限公司
敷地面積：16,400 m²
従業員数：172名
生産能力：1,300t / 月



6 韓国武蔵塗料株式会社
敷地面積：5,500 m²
従業員数：39名
生産能力：300t / 月



7 マレーシア武蔵塗料
敷地面積：3,700 m²
従業員数：34名
生産能力：400t / 月



8 ベトナム武蔵塗料
敷地面積：30,000 m²
従業員数：49名
生産能力：250t / 月



9 ベトナム武蔵塗料(ハノイ)
敷地面積：10,000 m²
従業員数：44名
生産能力：80t / 月



10 武蔵塗料製造(タイランド)
敷地面積：11,000 m²
従業員数：81名
生産能力：250t / 月



11 インドネシア武蔵塗料
敷地面積：800 m²
従業員数：15名
生産能力：30t / 月



12 武蔵塗料(インド)
敷地面積：8,700 m²
従業員数：59名
生産能力：100t / 月



13 ハンガリー武蔵塗料
敷地面積：25,000 m²
従業員数：30名
生産能力：360t / 月



14 U.S.ペイント(関連会社)
敷地面積：21,000 m²
従業員数：71名
生産能力：700t / 月

2024.3.31現在

経営理念とCSR

経営理念

経営理念とは、経営者の思いを込めた、自社の企業活動の基盤となる方針です。また、経営理念は自社がめざす“ありたい姿”でもあります。

それぞれ従事している業務内容が異なっても、すべての従業員が同じベクトルに向かって力を結集することで会社は成長していくものと確信しています。このため、当社グループは“理念経営”を推進しています。

【 経営理念 】

武蔵塗料グループは、独自の発想により社会に貢献できる商品を開発・供給し、塗料納入先・原材料仕入先・株主・社員の利益を確保し、社員一人ひとりが精神的に物質的に豊かとなり誇りをもって働けるグループとする。

当社グループは経営理念に続き、経営上の方針を示した「社是」、すべての従業員が守るべき理念や心構えを示した「社訓」も設定しています。

【 社 是 】

技術と誠意にプラスアイデア

【 社 訓 】

1. 我々は、機縁に感謝し御得意様には親切丁寧、誠意をもってあたねばならない。
1. 我々は、我社を尊重し、我社を愛し、我社の仕事に興味をもたねばならない。
1. 我々は、我社の目的を理解し、その目的達成のために献身しなくてはならない。
1. 我々は、公私の区別をハッキリし、責任感をもたなければならない。
1. 我々は、規律命令を重んじ、上級者に対し尊敬感情をもたなければならない。
1. 我々は、科学的にもの考え、価値判断を適切、過不足なく処理しなくてはならない。
1. 我々は、絶えず安全意識を働かし、いつも無事故で仕事をしなくてはならない。

経営理念浸透に向けて

当社グループの「社訓」は左記のように7項目ありますが、従業員の理解を深めるために、社訓に49項目の考え方を付記しています。

「経営理念」「社是」「社訓」および社訓の考え方などを掲載した冊子「musashi color」を2015年に発行して、従業員に配布しました。この「musashi color」はすべての海外拠点で現地語化され、朝礼時に復唱するなどして、経営理念の浸透を図っています。



musashi color

経営理念浸透プロジェクト「NIJI project」

2020年に経営理念浸透プロジェクト「NIJI project」が発足しました。経営理念を浸透させるためのプロジェクトはそれまでもありましたが、NIJI projectはこれまでのメンバーを総入れ替えて、新しい目線で、また各拠点から担当者が参加しており、

これまで以上にグループ一丸となって経営理念の浸透に取り組んでいます。

具体的な活動としては、「いいね」や感謝の気持ちを相手に送る「NIJIカード」や、塗料会社らしく経営理念を表現したアートを従業員やそのご家族から募る「ポスター大会」の開催、そしてそれをひとつの作品集としてまとめる「NIJIポスター作品集」の作成・配布などを行っています。

2024年は、全拠点共通で取り組める活動を企画中であり、グループで一丸となって同じベクトルに向かい、「楽しむことで自然と経営理念が浸透していく状態」を理想として、取り組んでいます。

さらに、経営理念の実践により顕著な貢献を行った従業員やチームに対しては、各拠点長や各部門長が推薦を行い、審査により表彰を行っています。(P30に記載)



NIJIカード事例



NIJIポスター掲示例

経営理念とCSR

経営理念とCSR

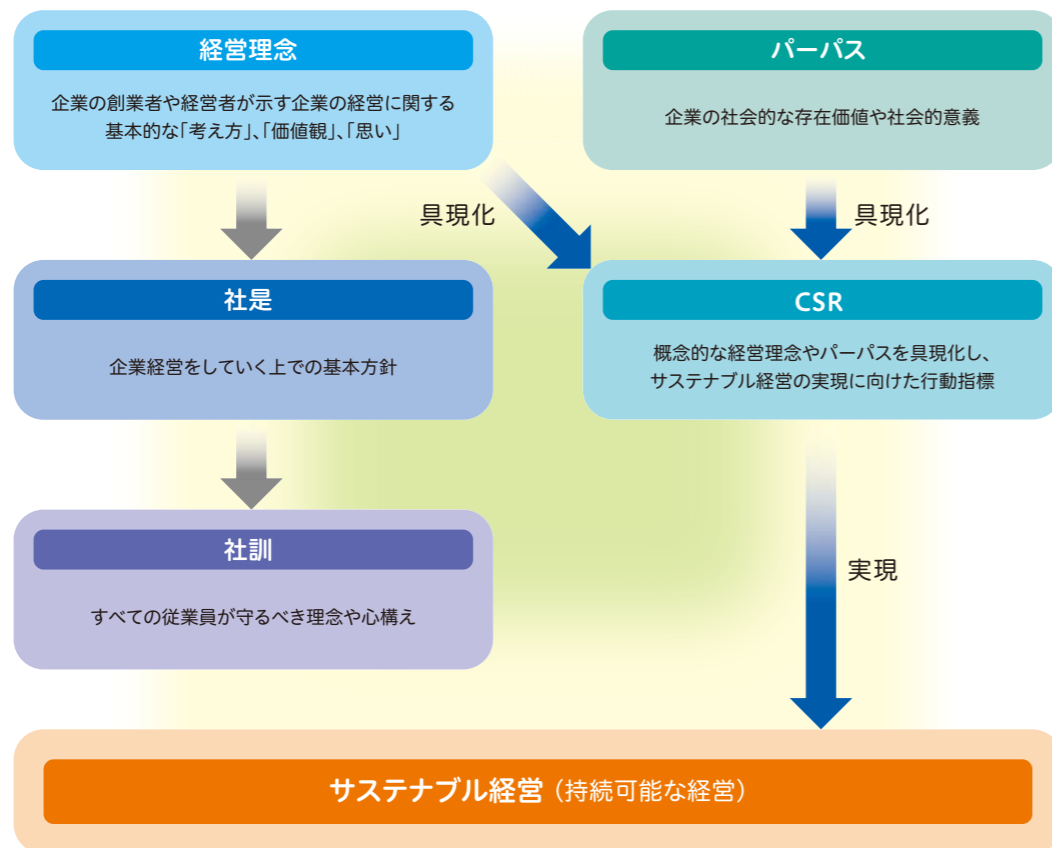
2023年12月5日に開催された日経SDGsフォーラムシンポジウムの基調講演で東京大学の亀山教授が、「サステナブルの語源となる“sustain”は一般に“持続”と訳されていますが、語源は放置することで下がっていくものを下から支えて下がらないようにすること」と述べられていました。これはまさしく企業活動にも言えることであり、企業が事業を存続させていくためには、サステナブル経営を推進していくことが重要であり、当社グループはこの“道標”となるのがCSR活動と考えています。

当社のCSR活動の位置づけ

P11でも述べたように、当社グループは理念経営を推進しています。

当社グループには、CSR活動を開始する以前から「経営理念」「社是」「社訓」「パーパス」があり、当社グループの従業員が大切にしている考え方です。

しかしながら、これらの既存文書は概念的な要素が強いことから、サステナブル経営に結びつけるためには、より実践的な取り組みが必要と考え、これらの既存文書を具現化したCSR活動の導入に至りました。これらの関係は次の図のようになります。



CSR活動への取り組み

CSR方針

CSR活動の開始にあたり、まずは当社グループのCSR活動への取り組み姿勢や考え方を明確にするための「CSR方針」を策定しました。

CSR方針

武蔵塗料グループ(以下当社と略)は、1958年にラッカー塗料を製造・販売する武蔵塗料からスタートしました。その後、お客様をはじめステークホルダーの皆様からのご支援を賜り、現在はホールディングスカンパニーとして、世界9か国に製造拠点をもつグローバル企業に成長しました。

「武蔵塗料グループは、独自の発想により社会に貢献できる商品を開発・供給し、塗料納入先・原材料仕入先・株主・社員の利益を確保し、社員一人ひとりが精神的に物質的に豊かとなり誇りをもって働けるグループとする。」という経営理念の実現に向け、今後もステークホルダーの皆様と持続可能な社会の発展に向けて、ともに歩んでまいります。

当社は、社会からの要求に応え続けることで、ステークホルダーの皆様からの信頼を深め、当社の企業価値を高めるため、CSR活動に取り組んでいきます。

1. 当社は、ステークホルダーの皆様からの要求の実現に向け、誠実に取り組みます。
2. 当社は、社会課題の解決に向け、社会に貢献する塗料製品の創出や新規塗料技術の開発を行っていきます。
3. 当社のCSR活動は、取引先企業様にも理解を求め、ご協力いただけるように努めていきます。
4. 当社のCSR活動は、ステークホルダーの皆様にご理解いただけるように、CSR報告書やホームページなどで公開します。
5. 当社のCSR方針は、日々変化する社会情勢を鑑み、定期的にもその適切性をレビューし、必要な見直しを実施します。

CSR活動には様々な活動項目があり、これらの活動は時代の変化により対応すべき内容が変化します。この状況を鑑み、当社グループのCSR方針はCSR活動全体からの視点で設定し、各活動項目については個別の方針を設定してそれぞれの取り組み姿勢や考え方を明確にしています。

CSR活動への取り組み

CSR活動

当社グループは、CSR(Corporate Social Responsibility)活動とは、その名の通り“企業が社会に果たすべき責任”とともに、一部の専門家で提唱されている“企業が社会からの要求に応える力”という2つの側面に取り組む活動と捉えています。

下図に示したように、当社グループのCSR活動は「社会にポジティブインパクトをもたらせる(攻めのCSR)活動」と「社会にネガティブインパクトを発生させない(守りのCSR)活動」の2つに大きく分けています。

社会にポジティブインパクトをもたらせる(攻めのCSR)活動は、社会課題解決の一助となることをめざし、社会との共通価値の創出を行うことで、社会から評価をいただき自社の企業価値向上につなげていくことを目的としています。この考え方のもとにはハーバードビジネススクールのマイケル・ポーター教授が提唱されたCSV(Creating Shared Value)です。

企業に対する社会からの要求とは、企業の力(固有の技術、製品や企業活動)をもって社会課題を解決することです。この社会課題を具現化したものがSDGsとされています。SDGsには17のゴールと169のターゲットがありますが、当社グループは自社

の企業特性を鑑み、社会にポジティブインパクトをもたらせる(攻めのCSR)活動として3つの活動項目を掲げて取り組んでいます。

社会にネガティブインパクトを発生させない(守りのCSR)活動とは、企業活動が社会や地球に迷惑をかけないために心がける行動と捉えています。いわば“企業のあるべき姿”でもあり、これに対しては公的機関やこれに準ずる機関から指針が出ています。また、ネガティブインパクトの発生は自社グループのみならず、サプライチェーン全体に影響を及ぼすことから、最近では調査票などにより取引先のCSR活動の取り組み状況を把握する動きがあります。よって、当社グループでは公的機関やこれに準ずる機関の指針とCSR調査票に記載された項目を吟味し、社会にネガティブインパクトを発生させない(守りのCSR)活動として7つの活動項目を選定し取り組んでいます。

■当社グループのCSR活動の設計図



■CSR活動項目と主に担当する部門およびステークホルダーとの関係

分類と活動項目	本誌掲載ページ	主体となって活動する当社部門・組織	ステークホルダー
社会にポジティブインパクトをもたらせる(攻めのCSR)活動			
環境重視の商品創出	P19	開発・技術部門	顧客、株主・投資家・金融機関
社会とのコミュニティによる価値創造	P23	マーケティング部門・全従業員	非営利組織(NPOなど)、地域住民
従業員のウェルビーイングの追求	P29	人事総務部門	従業員
社会にネガティブインパクトを発生させない(守りのCSR)活動			
人権	P31	人事総務部門	仕入先・協力会社、従業員、地域住民
労働安全衛生	P33	安全衛生委員会など	従業員、行政機関
環境保全	P35	生産部門	地域住民、顧客、行政機関
品質・安全(化学物質管理)	P41	品質部門・環境管理部門	顧客、業界団体
コンプライアンス	P43	人事総務・CSR・調達部門	仕入先・協力会社、株主・投資家・金融機関
情報セキュリティ	P45	情報システム部門	顧客、従業員、株主・投資家・金融機関
リスクマネジメント	P44	経営層	顧客、従業員、株主・投資家・金融機関

上の表では、当社グループのCSR活動が影響を及ぼすステークホルダーとの関係を示しました。表のようにCSR活動は当社グループに関係するすべてのステークホルダーに向け、各組織がそれぞれの立場に応じて対応しています。

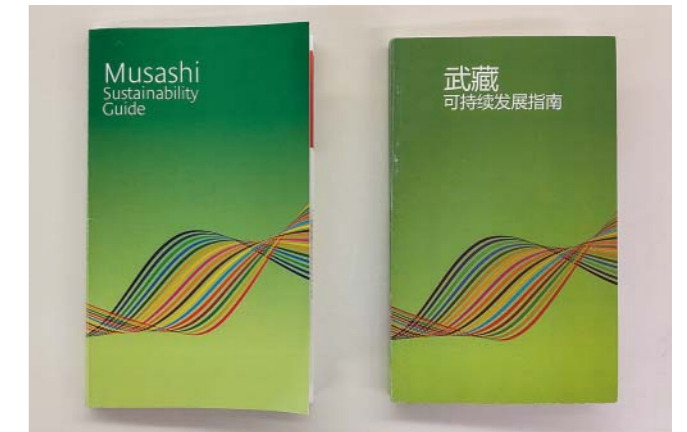
CSR啓発教育

2023年6月末に当社グループはCSR活動の内容をまとめた「Musashi Sustainability Guide」を発行しました。

この冊子は大きく分けて①CSRの位置づけ、②社会にポジティブインパクトをもたらせる(攻めのCSR)活動、③社会にネガティブインパクトを発生させない(守りのCSR)活動の3部構成となっており、さらに②については3項目、③については7項目の具体的な内容を記載しています。

CSR推進室ではこれを契機に、Musashi Sustainability Guideを用いて当社グループのCSR啓発教育を始め、2023年は日本を含み5か国6製造拠点で実施しました。2024年の上期中にすべての製造拠点での第1回目の啓発教育を完了させる予定です。

Musashi Sustainability Guide



日本語版

中国語版

Voice 担当者の声

以前は、「CSR活動=社会貢献活動」と捉える従業員が多かったように思います。しかし、2023年1月にCSR推進室が発足し、CSR活動への取り組みに関して文書体系の構築などが図られ、従業員向け説明会をしていくうちに、少しずつ「社会にネガティブインパクトを発生させない(守りのCSR)活動」にも意識が向けられるようになってきたと感じます。当社では、CSR活動の2つの側面を車の両輪であると捉え、今後も活動を推進してまいります。



武蔵塗料ホールディングス株式会社
CSR推進室
満尾 朋美

サステナブルな価値創造をめざす

当社グループは、「色と機能で世界を豊かに」をパーパス、すなわち存在意義としています。
 「豊かさ」の根拠となる経済的価値と社会的価値がどう生まれていくのか?を説明したものが「価値創造モデル」です。この「価値創造モデル」を、すべての従業員が理解した上で日々の業務に取り組むことが重要であると考えており、「価値創造モデル」は各国語に翻訳されています。

重要課題

重要課題とは?

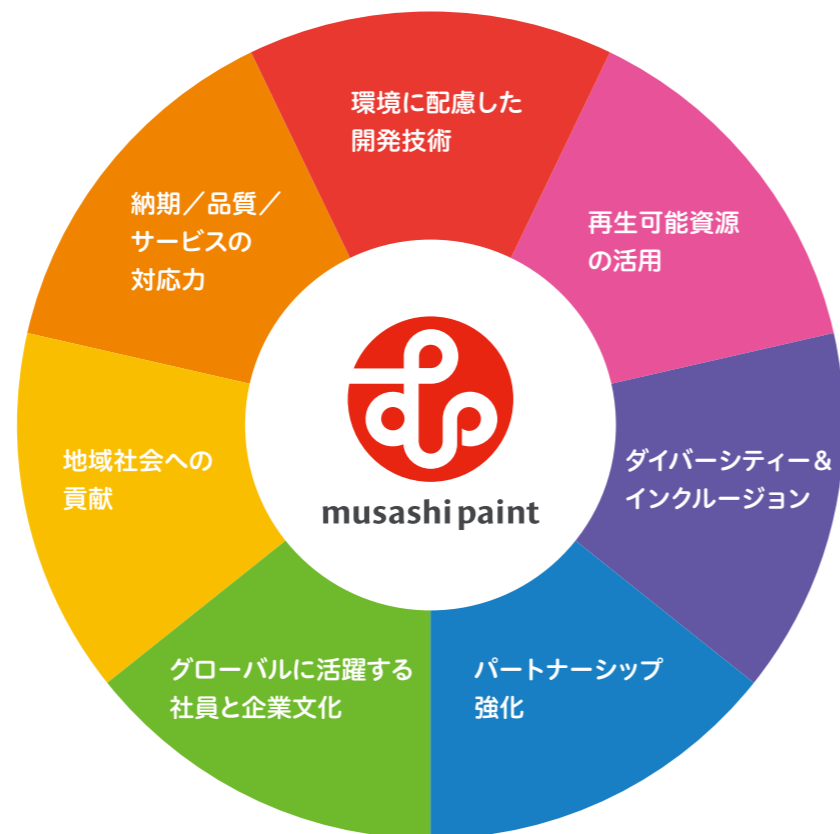
当社グループが重要視する、社会課題のことです。特に、当社グループがソリューションを提供できる課題を抽出しました。



ビジネス基盤

ビジネス基盤とは?

重要課題に対して当社グループが提供できるソリューションや、当社グループの強み、重要視している事項です。



Purpose of Musashi

色と機能で世界を豊かに

OUTPUT

OUTPUTとは?

ビジネス基盤をベースとして行う事業活動の結果として生み出される、経済的な価値のことです。また下部では、その経済価値を、どのような「製品」「用途」、そして、「どのエリアへの供給」によって生み出そうとしているかを説明しています。

指標	2025年度
連結売上高 (うち環境配慮製品)	200億円 (150億円)

主な環境配慮製品

- バイオペイント
- 水系塗料
- 抗菌・抗ウイルス塗料

主な用途



主な供給エリア



価値創造

価値創造とは?

OUTPUTの結果として生じる、社会やお客様にとっての価値(社会的豊かさ)となるものです。それは同時に、世界の普遍的な課題解決や、SDGsのゴール達成にも貢献することを示しています。

環境に配慮した製品・サービスの開発&販売を推進して下記に貢献する

- ・『植物由来原材料』使用によりカーボンニュートラルに寄与(バイオペイント)
- ・有害物質である有機溶剤の含有量を低減し、大気汚染を低減(水系塗料)
- ・接触感染のリスク低減に寄与し、健康リスクを低減(抗菌・抗ウイルス塗料)



電力使用量の削減に取り組み、事業活動にて排出するCO₂を削減する



ダイバーシティ&インクルージョンの推進で個性を生かした雇用を創出し、多様性に適した製品・サービスを生み出す



パートナーシップの強化により社会を色と機能でさらに豊かにする



攻めのCSR活動～社会の期待に応える～

環境重視の商品創出

当社グループは、塗料を事業の根幹とした化学物質を取り扱う企業であり、CSR活動項目の中でも特に環境に対する取り組みを重要視しています。

一方、消費者行動はその時代にあわせて変化し、現在は“人と一緒に生み出すトキに参加したい”という『トキ消費』の時代といわれ、特徴として貢献性が挙げられています。その例がSDGsであることから『サステナブル消費』ともいわれています。

当社グループは環境に対する貢献として、環境重視の商品創出に取り組んでいます。

“環境重視の商品創出”でめざすゴール

- ①当社が上市する商品は100%環境に配慮した商品である
- ②既存商品と一線を画した新しい設計開発や工法により環境負荷の低減に貢献する商品を創出している

商品紹介

▶バイオペイント

性能面や価格面で使用が難しかった植物由来の原材料を配合成分に用いた塗料です。自動車内装用塗料や家電用塗料と同等の性能を有するため、様々な分野への展開が可能です。

本製品を用いることで、化石資源の削減効果、化石資源に代わる植物資源の市場展開、将来的なCO₂排出量削減への試みが期待されます。

現状、当社製品では塗膜成分中の植物由来原材料比は最大40%ですが、今後100%をめざして検討を重ねてまいります。



三菱ケミカル・クリンスイ株式会社 商業リゾート施設「ヴィゾン」ヒノキ材の天板を用いたテーブルの表面仕上げに、当社製品のバイオペイントを使用

Voice 担当者の声

当社グループは、石油資源・CO₂・VOC・エネルギー・健康などの環境問題に対し、様々な角度からコーティング材の価値を世の中に提供しています。この活動のひとつに、石油由来原材料の供給不安リスクを軽減した『バイオペイント』があります。石油由来原材料に代わる第2の資源として植物由来原材料の可能性を、そして、CO₂排出量削減やエネルギー問題にも貢献できる可能性を世の中に共有し続けていきます。



武蔵塗料株式会社
開発技術部 課長 金田 公介

▶型内塗料

プラスチックの成型時に、塗料も同時に付着させるシステムに用いる塗料です。

塗装方法には様々な種類がありますが、当社グループの製品を主に採用いただいているプラスチック成型品市場では、形状や設備、コスト削減などのためスプレー塗装が一般的に用いられています。しかしながら、スプレー塗装は噴霧した塗料がすべて目的とする成形品に付着しないため、ミストなど廃棄物が発生

します。また、溶剤を含む場合はVOCが発生し、環境問題につながっています。

当社グループはそれらの問題を解決するため、欧州で開発されたプラスチックの成型時に塗膜も同時に付着される技術に着目し、この技術をお客様に提案するとともに、この工法に適した塗料を開発しました。

Color Formプロセス
製造サイクル一覧

期待される効果

工程	意匠
短いプロセスサイクル	自己修復性を持つ、高透明度な高物性の塗膜
塗装の乾燥工程レス	金型で様々な模様を転写
CO ₂ 排出量削減	
トータルコストの削減	

	型内塗装	スプレー塗装
塗装方法	○ 成型	△ 成型+塗装+乾燥
乾燥工程	○ 不要	× 60~80°Cで30~60分
発色性	△ クリヤー、ブラックのみカラーは検討中	○ 幅広い発色性
外観	○ 高レベリング 高透明性 レーザーエッチングによる模様	○ 様々な色調 高輝度、高光沢、艶消しなど
希釈	○ 自動計算	△ 手動
良品率	○ ゴミ・ブツ 少ない レベリング・たまり 良	△ ゴミ・ブツ 最大90%前後 レベリング・たまり
環境	○ 無溶剤 CO ₂ 排出量削減 廃塗料削減	△ 水系、バイオ
機能	○ 自己修復性	○ ソフトフィール等

Voice 担当者の声

型内塗装の技術は工数・コストの削減につながることで、溶剤フリーであること、かつ、CO₂排出量削減の効果が高い塗装方法として、サステナブルな社会の実現に向け非常に注目を浴びています。この工法を確立させるためには、設備・金型・塗料がしっかり連携し対応していく必要があります。当社グループは協力会社様と強力に連携し、サポートを行うことにより、型内塗装を広めていき、サステナブルな社会の実現に貢献していきたいと考えています。



武蔵塗料株式会社
開発技術部 部長 深澤 永至

環境重視の商品創出

▶メッキ塗装システム インジウム塗料

鏡面意匠を付与する方法としてめっきや蒸着加工がありますが、めっきは廃水処理等の点で環境負荷が高いこと、蒸着は専用設備の導入が必須でバッチ式のため連続ライン生産ができないことが課題でした。また、従来のメッキ塗装（銀鏡塗装・銀コロイド・銀錯体）は、耐候性や耐食性に劣っていました。

これらの課題を解決したのがインジウム塗料です。さらに、エンジニアリングメーカー「タクボエンジニアリング株式会社」と共同開発し、スプレーによるメッキ塗装の高度な塗装制御が可能となりました。

インジウム塗料の持つ意匠性と機能性を発揮するスプレーによる生産システムが完成しました。



スプレーによるメッキ塗装のインジウム塗料

Voice 担当者の声

鏡面意匠を得るための排水処理や大掛かりな設備を導入することなく、スプレーによるメッキ塗装システムが可能となりました。鏡面意匠と機能性を持ちあわせつつ、環境負荷の低減やコスト削減といった、環境に配慮した塗装システムの構築に取り組みます。



武蔵塗料ホールディングス株式会社
開発技術本部 課長 谷口 尚隆

▶既存塗料の環境負荷の低減につながるUV塗料 水系塗料

塗料には多くのタイプがあり、それぞれにメリットやデメリットがあります。それらはお客様の用途や形状、設備により選択して使用されています。

当社グループでは塗装先での環境負荷の低減を目的に、従来とは異なるタイプの塗料も提案し、一緒に環境問題に取り組んでいます。

熱硬化型塗料 → UV塗料：成膜時の使用エネルギー低減

熱硬化型塗料からUV塗料に変更することで、成膜時の使用エネルギーのうち、電力使用量を50～70%削減することが可能です。

	成膜条件	電力使用量
熱硬化型塗料	80℃ 30分	約80kwの電力使用
UV塗料	60℃ 5分予備乾燥 800mj/cm ² 照射	約30kw～40kwの電力使用

熱硬化比
50～70%
電力削減!!



期待される効果

- 無溶剤化の展開により、電力使用量とVOC排出量の大幅削減
- 照射設備（高圧水銀⇒LED）の進化により、電力使用量削減と環境負荷低減
- 高塗着性により、電力使用量削減と塗装コストダウン

Voice 担当者の声

環境問題のひとつである地球温暖化はCO₂排出が主要因ですが、UV塗料は熱硬化型塗料に比べて塗装乾燥時の省エネからくるCO₂排出量の低減に大いに役立つことから、今後さらに需要が高まると予測しています。

UV塗料という塗料製品の開発のみならず、高塗着塗装システム・照射システムの発展といった技術革新を取り入れながら社会課題の解決に役立ちたいと考えております。



武蔵塗料株式会社
開発技術部 課長 李 光民

溶剤系塗料 → 水系塗料：VOC排出量の削減

溶剤系塗料から水系塗料に変更することでVOCの排出量を削減することが可能です。



期待される効果

■水系塗料のVOC含有量

塗料系	VOC含有量 (g/L)	VOC削減率 (%)	危険物	臭気
2液型低温硬化タイプ	250～350	50～60	非該当	少ない
1液型高温硬化タイプ	200～300	60～70	非該当	少ない
UV硬化タイプ	200～300	60～70	非該当	少ない
当社溶剤系(比較)	600～700	—	該当	溶剤臭

- VOC含有量50～70%削減により、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント対策
- 中国のVOC規制に備えた設計値 (VOC含有量420g/L以下)
- 非危険物のため保管数量の制限なし、輸送コストの削減

Voice 担当者の声

水系塗料でVOCの排出量を削減していく取り組みは1960年代の自動車外装・電着塗料から始まり、建築・コンテナ・重機等、様々な分野でも製品開発・量産化が進んでおります。その中でも、当社グループは加飾や要求塗膜性能が多岐にわたるプラスチック塗装分野に適用できる、各国の環境規制に準じた水系塗料の開発を進めてまいります。



武蔵塗料ホールディングス株式会社
開発技術本部 課長 木本 邦博

Voice 責任者の声

開発技術部門としては、当社グループ経営理念にもありますように、「独自の発想により社会に貢献できる商品開発」を念頭に日々開発業務に取り組んでおります。日本のみならず中国・韓国・ASEAN・インド・ハンガリーといったグローバルでの開発力を活かしながら、環境に配慮した商品のラインナップを充実させていき、サステナブルな社会の実現に向けて寄与し続ける塗料メーカーでありたいと考えています。



武蔵塗料ホールディングス株式会社
開発技術本部 本部長 山本 剛

攻めのCSR活動～社会の期待に応える～

社会とのコミュニティによる価値創造

未来社会の産業構造に変革をもたらせる製品

現代社会にはSDGsのように解決しなければならない課題が数多くあります。当社グループは社会を構成する企業の一員として、サステナブルな社会の実現に向け自社の固有技術や製品を用いてこれらの課題に取り組むことが重要と考えています。また同時に“志”を同じくする他業種や同業他社の皆様と手を携え、未来社会の産業構造に変革をもたらせる商品や事業の創出も図っています。

“社会とのコミュニティによる価値創造”でめざすゴール

共創で社会に変革をもたらせる会社となる 社会とwin-winの関係を構築する

事例紹介

▶MATSURIへの参画～微細藻類由来のバイオペイントの開発～

MATSURIとはバイオベンチャー企業群「ちとせグループ」がカーボンニュートラルの実現に向け、微細藻類を活用した新産業の構築をめざした日本発の企業連携型プロジェクトです。藻類には海藻のような大型藻類と微細藻類がありますが、ちとせグループでは微細藻類を主体に2021年4月、20社のパートナー企業とともにスタートをきりました。当社はそのときから参画しています。MATSURIは“MicroAlgae Towards SUsustainable & Resilient Industry”の頭文字をとっており、“持続可能でかつ強靱な産業を微細藻類でめざす”となります。また、現在パートナー企業は79社となっています。当社がMATSURIに期待していることは、微細藻類を出発原材

料に用いたバイオペイントの開発です。当社はすでに植物由来の原材料を使用したバイオペイントを開発していますが、微細藻類は菜種油に比べて約10倍のオイル収量があります。

また植物と比較して少量の水で生産でき、水と光があれば基本的にどこでも培養できることから、砂漠や荒地のような農業利用が難しい土地や耕作放棄地を有効活用して培養することが可能なため、食糧の安定供給が課題となるこれからの時代に、食糧生産と競合しないという点は非常に重要なメリットといえます。

当社は、2025年までに微細藻類由来の原材料を使用したバイオペイントの商品化を行い、お客様への提供をめざしています。



▶株式会社TBM～環境配慮製品の共創～

TBM社が開発したLIMEX(ライメックス)は、炭酸カルシウムなど無機物を50%以上含む、無機フィラー分散系の複合素材です。世界40ヶ国以上で特許を取得しており、COPやG20の国際会議で紹介される他、日本の優れた技術として、UNIDO(国際連合工業開発機関)のサステナブル技術普及プラットフォーム「STePP」に登録されています。

主原料となる石灰石は、資源輸入国である日本においても自給率100%、地球上に非常に豊富に存在する資源です。石灰石は一般的なプラスチックと比較して同体積の焼却時にCO₂排出量を約58%排出削減できるため、プラスチック代替素材の主原料として石灰石を用いることで石油由来プラスチックの使用量を抑え、焼却時のCO₂排出量を削減できます。そして、ポリプロピ

レンベースのLIMEXが射出成形によって化粧品容器や建設資材向けに使用される際、そのコーティング材として当社のバイオペイントを適用し、環境配慮製品の共創を進めています。

また、TBM社はGreenore Limited社が製造した、ケミカルプラントから排出されるCO₂を回収し、製鉄工場から排出される副産物である鉄鋼スラグに含まれるカルシウムイオンと化学合成することで、LCA上、カーボンネガティブが見込まれるCCU(Carbon Capture and Utilization)炭酸カルシウムをLIMEXの主原料として使用した「次世代LIMEX」を開発しました。よって、次世代LIMEXに対しても当社のバイオペイントを適用していきます。またCCU炭酸カルシウムを使用した各種塗料開発にも着手しています。



TBMと当社グループが連携し、当社製品バイオペイントを活用したLIMEX

Voice 責任者の声

お客様から選ばれる塗料メーカーになる、そのためには固有技術や製品だけではなく、コミュニティによる価値創造、つまり人が集まって成り立つ、共通の絆からのアウトプットが必要になってきます。今後も“志”を同じくする他業種や同業他社の皆様と接触する機会を多く持ちながらお客様から選ばれる塗料メーカーになるために邁進していきます。



武蔵塗料ホールディングス株式会社
営業本部 本部長

小澤 清弘

攻めのCSR活動 ～社会の期待に応える～

社会とのコミュニティによる価値創造
地域社会貢献

企業が事業を継続する上で、地域住民との協力関係は重要です。また地域との良好な関係の構築は人財確保の点からも欠かすことはできません。

当社グループは地域社会から好まれる、喜ばれる会社であることをめざし、早くからこの課題に取り組んでいます。

事例紹介

▶ 自社製品を用いて地域を活性化 (日本)

当社グループの本体は東京都豊島区の池袋にあります。豊島区ではSDGsをはじめ様々な市民活動を行っており、当社もその中の一部の活動に参加しています。豊島区では校舎で不要となったテーブルやイスを街頭スペースに設置して、訪れた方々のオアシスとして開放しています。しかし直射日光や風雨などで表面に劣化が生じていました。そこで当社は塗装対象が木材であり、環境への影響も考慮して自社製品「バイオペイント」(P19に記載)を塗装しました。

当社のパーパスである「色と機能で世界を豊かに」が実践された地域社会貢献事例といえます。



豊島区の市民活動に参加し、塗り替えを行ったスペース

▶ バス停の塗装による地域環境整備 (韓国)

韓国拠点の近くにあるバス停は古びており、一見して暗い雰囲気でした。このため地域の役所と連携してより快適で安全な環境に改善する活動を行いました。具体的にはバス停を全面塗装しなおすことで、地域住民が快適な環境の中でゆっくり休ん

だり、バスを待ったりできるようになりました。

当社のこの活動は地域の人々に好評となり、別のバス停が塗りなおされる波及効果も生まれました。



Before



After

▶ 障がい者のための新たな雇用機会の創出 (中国・天津)

当社は危険物や化学物質を取り扱う塗料製造会社であるため、障がい者の雇用が難しい職場です。しかしながらダイバーシティ&インクルージョンの推進をめざす上でこの課題に向き合う必要があります。天津拠点では、この課題に対し、自社内に障がい者のための新たな雇用機会の創出を行いました。具体的には社内

にある観葉植物の世話を障がい者の方々をお願いしています。障がい者の雇用と緑の保全の効果はともに小さな一歩ではありますが、私たちはこのような取り組みの積み重ねが大切であると考えています。



観葉植物の世話をする様子

▶ 社内フリーマーケットの開催 (日本、韓国)

日本拠点と韓国拠点では、従業員が各自では使用しなくなったがまだ十分に使用できる衣服・バッグ・ぬいぐるみ・日用雑貨などを抛出し、それを他の従業員が購入したり、譲り受けたりする社内フリーマーケットを開催しています。残念ながら引き取りがなかった品物は地域の福祉団体と協議の上、必要なものをお

渡ししています。また従業員が購入した代金は同じく地域の福祉団体に寄付しています。

このように使用しなくなった品物が他に有効活用いただけることは、抛出者にとっての喜びでもあります。



集められた品物



購入して喜ぶ従業員

▶ こどもたちとともに (ベトナム・ハノイ、ホーチミン)

ハノイ拠点とホーチミン拠点では、従業員のこどもたちは最も身近な地域住民であると捉えています。このため従業員のこどもた

ちとの対話の機会として下記のような活動に取り組んでいます。また、下記以外にもプレゼントの贈呈や運動会も実施しています。



絵画コンテスト(ハノイ)



自社工場見学(ハノイ)



自社工場見学(ホーチミン)

攻めのCSR活動～社会の期待に応える～

社会とのコミュニティによる価値創造

地域社会貢献

▶寄付活動（全拠点）

当社グループは地域の状況にあわせ、各拠点で様々な寄付活動にも取り組んでいます。また、下記以外にも地域清掃活動や献血などを行っています。

寄付分類	拠点	寄付先	活動内容(寄付)
直接的金銭支援	中国・天津	赤十字	金銭
	中国・蘇州		
	中国・中山		
間接的金銭支援	韓国	福祉団体	フリーマーケット収益
	マレーシア	がん協会	チャリティラン
	ハンガリー	病気のこどもたち	プラボトルキャップ
物質支援	日本	地域フードバンク	食材
	日本、韓国	地域福祉団体	フリーマーケット品
	中国・蘇州	消防署	飲料水
		老人ホーム	食料品、生活用品
	マレーシア	洪水被災者	生活物質
	タイ	病院	酸素ボンベ
		慈善団体	不要な古いパソコンなど
	ベトナム・ホーチミン	生活弱者	米
		身寄りのないこどもたち	布団、マット、椅子、服
	インドネシア	地域コミュニティ	塗料、使用済みの缶・ドラム缶
	インド	地域の中学校・高校	備品
	ハンガリー	学校	スマートボード
		ウクライナ	生活物資
保護犬・猫の施設		物資	

▶他社の救援活動サポート（中国・蘇州）

蘇州拠点では、同じ地域で他社が被災したときに従業員が救援活動のサポートを実施しています。



他社の救援活動を行った蘇州のチーム

地域社会貢献に対する当社の現状課題と対応

既述の通り各拠点では独自色を持った社会貢献活動を実施しています。このような活動の継続は重要ですが、より“武蔵塗料らしさ”を社会貢献でも出していくためには、ターゲットの絞り

込みも重要と考えています。「こどもたち／地球の未来のために」などと一本化していきたいと思えます。

Voice 各拠点を代表して

「社会貢献」と聞くと一見壮大なテーマですが、社内で実施している5SプロジェクトやNIJI(理念定着)プロジェクトの活動が自然とつながっていることに改めて気づかされました。武蔵塗料グループの一員として、目の前の小さな活動でもベクトルを社会に向けたアイデアさえ加えれば、派手ではありませんが着実に社会に役立つ有意義な活動につなげることができると思っています。

「사회 공헌」이라 하면 언뜻 장대한 테마로 생각됩니다만, 사내에서 실시하고 있는 5S프로젝트나 Niji (이념 정착) 프로젝트 역시 자연스럽게 사회 공헌으로 이어지고 있다는 것을 새삼 깨닫게 되었습니다. 무사시 그룹의 일원으로서, 눈앞의 작은 활동이라도 벡터를 사회로 맞춘 아이디어만 더한다면, 화려하지는 않지만 착실하게 사회에 도움이 되는 유의미한 활동으로 이어지게 할 수 있다는 것을 느꼈습니다.



Korea Musashi Paint Co., Ltd.

Eunmi Lee

攻めのCSR活動～社会の期待に応える～

従業員のウェルビーイングの追求

厚生労働省の報告書では「ウェルビーイングとは、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念」と定義され、短く表現すると「持続可能で多面的な幸せ」といわれています。従業員は最大のステークホルダーであり、従業員のモチベーション向上や成長なくして会社は成り立ちません。

当社グループは、従業員のウェルビーイングに向け、様々な取り組みを実施しています。

“従業員のウェルビーイングの追求”でめざすゴール

働きがいのある労務管理を構築する

従業員のモチベーション向上への取り組み

▶ Continuous Service Award (グループ永年勤続表彰)

当社グループは各拠点で実施している永年勤続表彰以外にグループ全体での永年勤続表彰も実施しています。表彰対象は当社グループでの在籍年数が5年・15年・25年・35年で、2023年は5年:68名、15年:21名、25年:2名、35年:1名の従業員が表彰されました。副賞として5年勤続の方は社名入りのマイボトル、15年勤続の方は同期入社による旅行、25年勤続の方は当社製品が採用されている商品10万円相当、35年勤続の方は純金製の社章・ビデオレター・当社製品が採用されている商品5万円

相当を贈呈し、長年の勤務に感謝しました。

15年勤続の副賞である同期旅行は、それぞれの拠点で中堅になった従業員同士がお互いを知ることで仲間としての絆を深め、さらに旅行を自ら計画することでリーダーシップを高めてもらう意図から始めています。コロナ禍が明けた2023年から本格化し、行き先は参加者全員で検討した結果「日本」に決定しました。全員での富士山見物や2グループに分かれてのディズニーランド、都内バスツアーで楽しい時間を過ごしました。



富士山見物



東京ディズニーランド



都内バスツアー

▶ 5S Activity Award

当社グループは、継続的に5S活動に取り組んでいます。当社ホールディングスの組織である5S Globalが全拠点を訪問して5Sの活動状況を評価・順位付けを行い、優れた拠点を表彰しています。優勝チームには、当社グループの拠点のある地域への研修旅行が贈られ、自拠点以外の5Sメンバーと交流を行い、5S活動におけるさらなる高みをめざす機会になっています。2023年度は、天津武蔵が優勝しました。



表彰式の様子

▶ Musashi Global Awards

このアワードは経営理念に基づいて行動し、精神的・物質的な豊かさへ貢献した従業員を表彰しており、定量的な成果に対して「Best performance」、定性的な成果に対して「Musashi color award」を制定しています。

これらは、拠点長や部門長から提出された推薦文からお互いの投票によって決定しています。



表彰式の様子

従業員の働きやすさに関する取り組み

▶ フレックス勤務と在宅勤務の併用 (導入試験段階)

池袋本社勤務のホールディングス従業員を対象に2023年度より試験的にフレックス勤務を導入しました。これはコロナ禍で導入した在宅勤務制度を用いることが難しい職場に配慮したものです。同時にこれらの制度の導入は池袋本社勤務者の採用にも効果があります。

最近ではコロナ禍が明け、在宅勤務を廃止する企業もありますが、働き方の選択肢を増やすとともにさらなるコミュニケーションや情報共有の活性化を目的として、2024年度より出社比率を高めて対応することにしました。

▶ 時間単位休暇制度の導入

生産性の効率面から始業開始時間が一定の入間工場では、フレックス勤務制度の導入が難しいため、有給休暇を時間単位

で取得する時間単位休暇制度を導入しています。これにより、有給休暇取得の効率化を図ることができます。

▶ 育児短時間勤務制度の範囲拡大

日本拠点では、2011年に育児・介護休暇制度を制定し、社会情勢の変化により見直しを行ってきました。2023年には当社グループ初の男性従業員による制度利用がありました。2024年

1月にはさらに制度を見直し、育児特別短時間勤務制度を追加しました。

Voice 責任者の声

ウェルビーイングは経営理念「社員一人ひとりが精神的に物質的に豊かとなり誇りをもって働けるグループとする」と相通じるものがあります。最近導入した時間単位休暇制度は従業員からの何気ない一言から制度化されたものであり、今後も従業員の声に耳を傾け、現場目線をもって従業員の物心両面の幸せを追求していきます。

また現在、従業員が海外グループ拠点へ数週間出張する企画「クロスオーバー研修」を進めています。異国での暮らし、異文化に直接触れることで、個々の視野と視座が高くなり、国際感覚が身につく育成機会の創出を目的としています。



武蔵塗料ホールディングス株式会社
人事総務本部 部長 長澤 俊太郎

守りのCSR活動～企業としての責任～

人権への取り組み

人権とは「人間の生存にとって欠くことのできない権利および自由」とされ、国家権力によっても侵されない基本的な諸権利であり、“一企業”や“一個人”が人権を守ることは当然のことです。しかしながら、現代社会においても依然として人権を阻害する行為が多く発生しています。当社グループは自社の企業活動やその影響が及ぼす範囲において、人権が阻害される行為が発生しないようにしっかりと取り組んでいきます。

“人権への取り組み”でめざすゴール

2030年までに、取引先様を含む当社の人権デューデリジェンス体制を構築する

人権に対する取り組み

当社グループは2023年に、人権への取り組み姿勢や考え方を明確にするための「人権方針」を策定しました。まずは、グループ内での人権に関する状況を把握し、万一不備が発見されたときには迅速に改善を進めていきます。

人権方針

1. 武蔵塗料グループ(以下当社と略)の人権に対する基本的な考え方

当社は、経営理念の「社員一人ひとりが精神的に物質的に豊かとなり誇りをもって働けるグループとする。」の考えのもと、当社の事業にかかわるすべての方々の人権を尊重します。

2. 適用範囲

当社：グループとしての法人、役員および従業員に適用します。

ビジネスパートナー：取引先企業様をはじめ、当社の事業にかかわるすべての企業様にも人権の尊重に努めていただくように求めています。

3. 適用法令

当社は、国際的な基準はもとより、当社の事業にかかわるすべての国の人権に関する法律を順守します。

4. 推進体制

武蔵塗料ホールディングスの人事総務本部が主体となって人権に取り組んでいきます。

5. 人権デューデリジェンス

当社の事業活動が人権侵害を引き起こしている、あるいは、それを助長していることが明らかになった場合は、その是正・救済に取り組みます。

また、私たちの事業活動が引き起こした、あるいは、助長したものでなくても、取引関係によって私たちの企業活動が人権侵害に直接関与している場合は、是正への働きかけを行います。

6. 当社が人権に対して取り組む重点事項

1) 強制的な労働の禁止

当社は、従業員本人の意思を尊重し、非自発的な労働を一切排除します。また労働に際し、不当な制約は行いません。

2) 児童労働の禁止と若年労働者(18歳以下)への配慮

当社は、児童(義務教育未了の15歳以下)労働は一切行いません。当社の採用基準は原則18歳以上の高等教育既卒者とします。特別な理由により18歳以下を雇用する場合には、危険有害な作業をさせないなど、法を順守した対応を行います。

3) 労働時間への配慮

当社は、従業員の健康と安全に配慮し、法を順守した労務管理を行います。

4) 適切な賃金と手当

当社は、法を順守した賃金体系により、従業員に賃金や手当を支給します。また、従業員の生活基盤を損なう不当な減額は行いません。

5) 非人道的な扱いの禁止

当社は、従業員に対するハラスメント行為、性的虐待、体罰、精神的や肉体的抑圧、言葉による虐待などの非人道的な行為を一切禁止します。もしその行為が認められた場合には、就業規則によって厳重に対処します。

6) 差別の禁止

当社は、従業員に対するあらゆる差別行為(人種、性別、外観的特徴、宗教など)を禁止します。もし、その行為が認められた場合には、就業規則により厳重に対処します。

7) 衛生設備・食事および住居

当社は、従業員の健康確保のため、社内において従業員に清潔な食堂、トイレ、更衣室などの厚生施設を、また、従業員の事情を鑑み安全清潔な寮や社宅を提供します。

8) コミュニケーション

当社は、従業員と良好なコミュニケーションの構築に向けて、常に対話の機会を設定して、従業員の意見に耳を傾けます。

9) 人権侵害にかかる原材料の適切な管理

当社は、コンフリクトミネラル(紛争国鉱物)をはじめ、その国や地域の人権を侵害する行為により産出または製造された原材料を当社製品に用いることを防ぐため、環境や品質マネジメントシステムと連動して、適切な管理に努めます。

7. 当社の「人権方針」は、社会情勢の変化を鑑み定期的に見直しを実施します。

人権に対する当社の現状課題と対応

最近の社会全体の傾向から、人権は他のCSR活動項目以上にサプライチェーン全体での対応が求められています。当社グループもお客様からCSR調査票で人権への取り組みを問われていますので、まずは企業活動が「人権方針」に沿った行動を伴っていただければなりません。

続く当社グループの役割として、主に原材料を購入している取引先様に対し当社グループの「人権方針」への理解と協力を求め、取引先様調査を実施するなど人権デューデリジェンス体制の構築を図っていきます。

守りのCSR活動～企業としての責任～

労働安全衛生への取り組み

当社グループは原材料に化学物質、生産に設備機器を取り扱うメーカーです。一方、当社グループにとって従業員は最大のステークホルダーです。従業員に日々安全で健康な職場を提供することは、企業として最大の責務であると捉えています。

“労働安全衛生への取り組み”でめざすゴール

労働災害・健康障害ゼロの職場を達成し、
この状態を維持する

労働安全衛生に対する取り組み

当社グループはCSR活動を開始する以前から安全衛生委員会などを通じて、職場の安全と健康の維持や向上に努めてきま

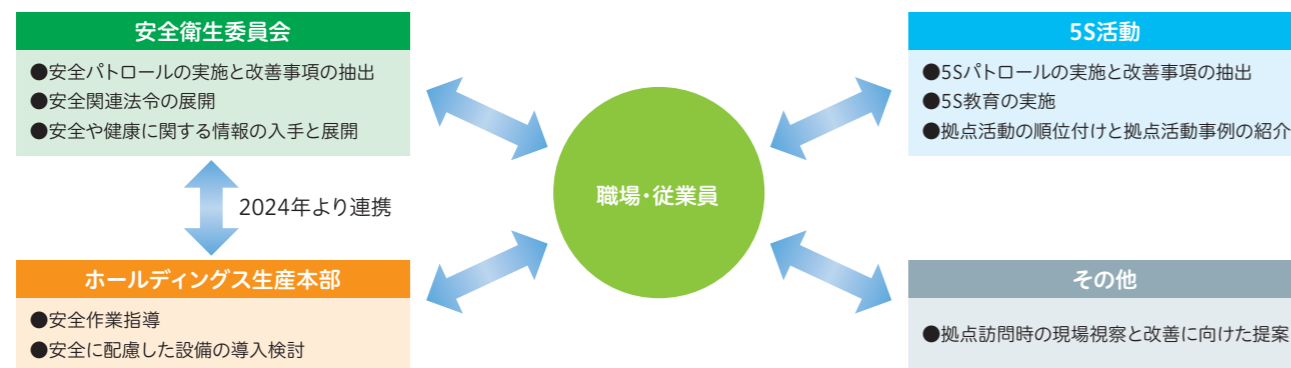
したが、2023年に労働安全衛生への取り組み姿勢や考え方を明確にするための「労働安全衛生方針」を策定しました。

労働安全衛生方針

1. 当社は、安全衛生委員会活動とともに、安全や健康に関する文書類を作成し、これらを用いて啓発活動を実施することで、労働災害事故の撲滅や健康被害の抑止を図ります。
また、文書類は社会要求の変化や当社の状況を鑑み、適時見直しを行い、その有効性を高めます。
2. 当社は、安全で健康な職場の形成を目指し、全社や各職場で労働安全衛生目標を設定し、定期的に進捗管理を行い、改善を図ります。
3. 当社は、当社の事業活動に関連する労働安全衛生法令、ステークホルダーの要求に同意した事項、当社が独自に設定した基準を順守します。
4. 当社は、安全で健康的な労働条件を提供します。

▶労働安全衛生活動体制

当社グループは下図のように安全衛生委員会、5S活動、ホールディングス生産本部、異なる拠点訪問時の現場視察の4方向から労働安全衛生に取り組んでいます。



▶従業員の安全意識の向上

当社グループは化学物質取り扱い時の適切な保護具着用や設備機器の安全装置の設置など、ハード面において労災事故や健康障害の対策に取り組んでいますが、それでも労災事故は

毎年のように発生しています。

そこで従業員の意識の向上が重要と考え、ソフト面からのアプローチとして次の“心構え”を策定しました。

- 1 あわてない、人をあわてさせない!
- 2 いつもと違う作業を行うときは慎重に!
- 3 行動や作業前には、まずは周りを見渡して!
- 4 力を加えるときはゆっくりと!
- 5 職場でルールや手順を「決める!」「守る!」「改善する!」

労働安全衛生に対する当社の現状課題と対応

労災の定義については各拠点が存在する国や自治体で異なります。

今後管理を行っていく上で、全拠点で共通の“ものさし”で実態把握が必要があると考え、当社グループ独自の全拠点共通の労災定義を設定しました。

武蔵塗料グループの“労災定義”^{*1}（以下の1～4項すべてに該当する場合）

1. 当社グループの拠点において^{*2}
2. 業務時間内に^{*3}
3. 業務に関係する明らかな要因によって被災し^{*4}
4. 医師による診察を受けたケガや疾病^{*5}

*1:当社が管理できる労災リスクを低減させるためのグループとしての定義であり、各国が定めている法令による労災定義とは異なります。

*2:出張者や外来者を含めて各拠点内で発生した事故を対象とし、通勤途上など当社が管理できない事故は除きます。

*3:休憩時のレクリエーションに伴う事故は除きます。当社使用の化学物質を起因とする疾病は業務時間とは関係なく対象となります。

*4:原因が不明な疾病(慢性的な腰痛)は除きます。

*5:受診した結果、処置や投薬がない場合も含まれます。

以上の定義を2024年より採用して実態把握を行い、グループ全体の労働安全衛生の管理の強化を図っていきます。

環境保全への取り組み

当社グループは環境課題に対し、P19-22に記載の自社固有技術を用いた環境重視の商品創出(環境貢献)活動と、自社の企業活動がもたらす環境負荷の低減(環境保全)活動に分けて取り組んでいます。

“環境保全への取り組み”でめざすゴール

- ①2050年までにScope1とScope2のカーボンニュートラルを実現する
- ②2030年までにゼロエミッションを達成する

*当社は、上記のゼロエミッションを廃棄物埋め立て量1%以下と定義しています。

環境保全に対する取り組み

ISO14001は各拠点で認証を取得していますので、拠点ごとに環境方針の表現が異なります。下記には一例として日本拠点の環境方針を記載しました。

環境方針 (武蔵塗料:日本)

環境理念

我々は、武蔵塗料の事業活動が広く地球環境と密接に関わっていることを認識し、一人ひとりが自然を大切にすることを原点とし、地域環境や地球環境にやさしい事業活動を継続し、「積極的に地球環境保護に取り組む企業」を目指します。

行動指針

1. 我々は、塗料の生産を通して社会を豊かにし、環境に配慮した製品を創り出します。
2. 我々は、環境方針を達成する為に環境目標を定め、計画的な活動と定期的な見直しにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善および環境パフォーマンスの向上に努めます。
3. 我々は、生産活動を通して汚染の予防と環境マネジメントシステムの継続的改善を図り、環境パフォーマンスを高めるために、以下の事項に取り組みます。
 - ・省エネルギー：日常の運用管理による電力の節減
 - ・廃棄物の削減：廃塗料の削減(不良在庫品(製品・半製品)、生産工程の見直し)
 - ・省資源(リサイクル含む)：廃棄物(廃溶剤)の再利用による資源の有効活用
 - ・有害化学物質の削減・全廃：環境対応製品の開発、武蔵塗料グループグリーン調達基準に適合した 原材料の調達
4. 我々は、環境関連法令および当社が同意するその他の要求事項を順守し、利害関係者との信頼関係構築と発展に努めます。
5. 我々は、環境方針を文書化した情報として維持し、当社で働く又は当社のために働くすべての人に周知するとともに、利害関係者が入手できる環境を確保します。

▶当社グループのISO14001認証取得状況

認証取得済み	日本、韓国、中国(天津・蘇州・中山)、マレーシア、ベトナム(ホーチミン)、タイ、インドネシア、ハンガリー
認証取得計画中	中国(重慶)、ベトナム(ハノイ)
認証取得計画未定	インド

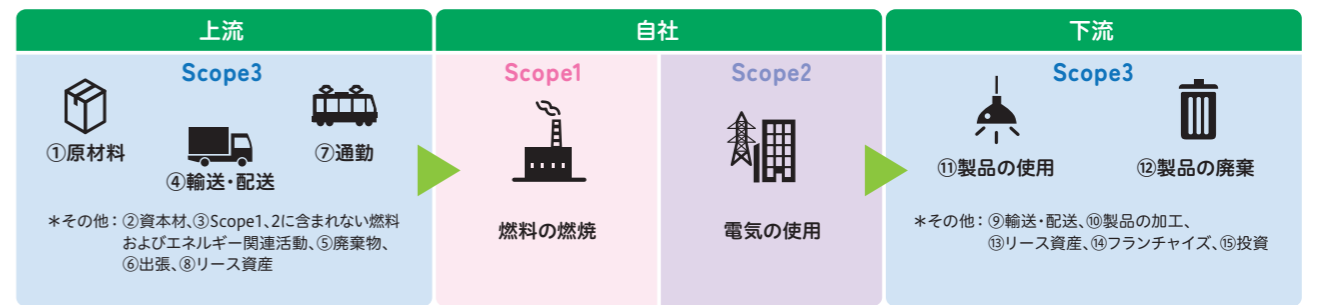
カーボンニュートラルに向けての取り組み

▶CO₂排出量の実態把握

地球温暖化の要因とされるのが温室効果ガス(GHG)であり、中でもCO₂の排出量増加であるといわれています。当社グループも企業としての責任から、この課題に取り組んでいかなければなりません。

このため、まずは当社グループの企業活動によるCO₂排出量の把握から取り組みを始めました。

CO₂排出量を把握するには、一般的に次の図の考え方が用いられています。



当社グループは世界に多くの拠点を有していますが、これらの項目の算出根拠となるデータは世界で統一されていないため、ま

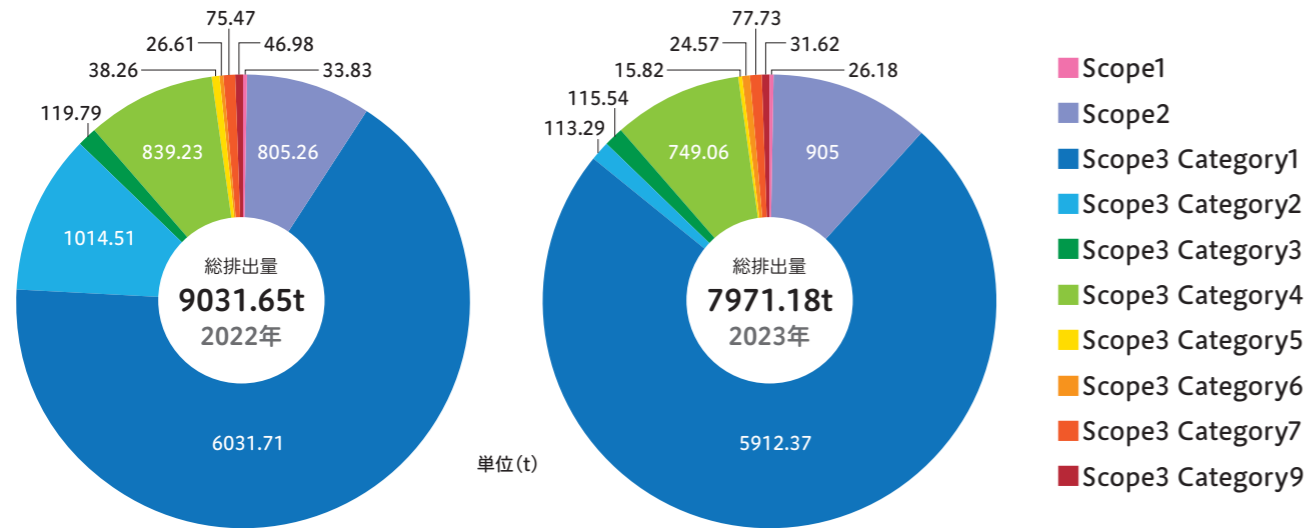
ずは日本拠点の算出を以下の根拠から行いました。算出に関する考え方や排出係数は環境省やIDEAのDBを参考にしました。

大分類	小分類	内容	算出方法
Scope1	—	社有車のガソリン	使用量×DB排出係数
Scope2	—	電力	使用量×電力購入各社の排出係数
Scope3	Category1	原材料	成分分解した各使用量×DB排出係数
	Category2	資本財(設備投資)	項目分類した各投資額×DB排出係数
	Category3	エネルギー関連	Scope1,2各使用量×DB排出係数
	Category4	配送・輸送	カテゴリー別上位10社トンキロ法
	Category5	廃棄物	項目分類した各廃棄物量×DB排出係数
	Category6	出張	従業員数×DB排出係数
	Category7	通勤	従業員数×地域・職種別DB排出係数
	Category8	非該当	—
	Category9	配送・輸送(下流)	上位10社トンキロ法
	Category10~15	算出不可または非該当	—

環境保全への取り組み

先の表より、当社グループの日本拠点(営業拠点含む)における各Scope、CategoryごとのCO₂排出量を求めると次のような結果となりました。

■日本拠点におけるScope、CategoryごとのCO₂排出量



2022年は立体倉庫建設という大型設備投資案件があり、Scope 3 Category 2(資本財・設備投資)の数値が高くなりましたが、通年は2023年レベルが妥当と考えており、全体のCO₂排出量も2022年と2023年の比較でその分減少しています。当社グループのScope 1~Scope 3全体を見渡すとScope 3

Category 1(原材料)の比率が著しく突出しています。また自助努力で削減すべきScope 1+Scope 2では、Scope 2すなわち当社グループでは電力由来のCO₂排出量が大部分を占めています。

▶各生産拠点の電力使用量とCO₂排出量の実態把握(2022年)

*表中の海外のCO₂排出係数は国ごとの公表値を使用

拠点	電力使用量(kWh)	排出係数(t-CO ₂ /kWh)	CO ₂ 排出量(t)
日本	1,608,425	0.000481	774
中国(天津)	621,620		189
中国(蘇州)	1,684,500	0.00064	1,078
中国(重慶)	348,100		223
中国(中山)	1,904,804		1,219
韓国	686,109	0.000441	303
タイ	380,752	0.000566	216
ベトナム(ホーチミン)	303,906	0.0008458	257
ベトナム(ハノイ)	223,479		189
インドネシア	21,260	0.000877	19
マレーシア	180,766	0.000741	134
インド	280,000	0.00072	202
ハンガリー	294,355	0.000296	87
合計	8,538,076		4,890

この表には営業所などの数値は含まれていませんが、これらをあわせるとグループ全体で電力使用に起因するだけでも年間に約5,000tのCO₂を排出しています。

▶CO₂排出量削減への取り組み

原材料由来のCO₂排出量の削減に向けては、塗料設計段階からより排出係数の小さな原材料への転換を環境重視の商品創出として進めていきます。

また、グループ全体の全従業員で取り組む項目として電力使用量の削減を図っていきます。これは電力使用が全従業員の

日々の業務に関わっているためです。

なお、この電力使用量の削減の取り組みは2024年度の経営指標ともリンクして進めています。

次の対策で電力使用量の削減に努めていきます。

- 1 全従業員が電力使用の無駄をなくす(適切なエアコン使用、こまめな消灯など)
- 2 設備や機器の新設や置き換え時にはより省エネのタイプを購入する
- 3 生産面での効率化を図る

これと並行して下記を行い、CO₂排出量の削減に努めていきます。

- 1 植林、植栽、整備による緑化運動の促進
- 2 電力を再生可能エネルギー由来に切り替え

▶CO₂排出量削減に向けた具体的な活動事例

入間工場生産棟塗り替え時の断熱遮熱塗料の採用(日本)

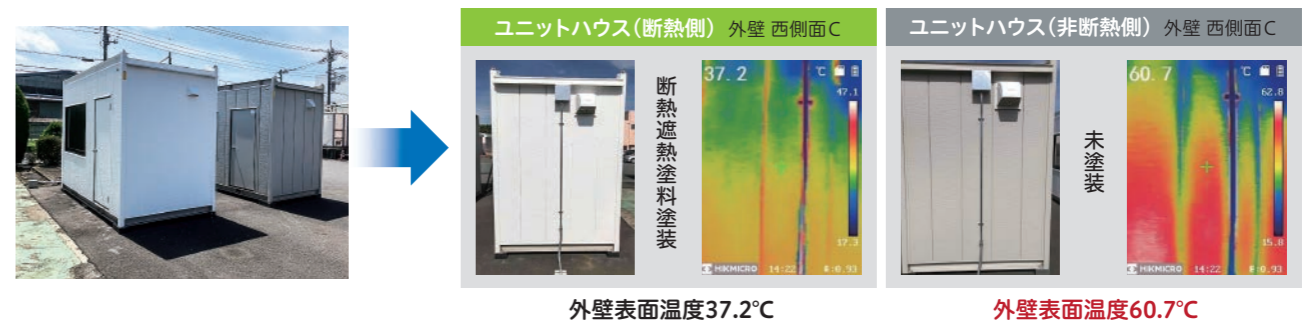
断熱遮熱塗料を用いて、入間工場生産棟の塗り替えを行いました。



塗りは2023年12月に行ったため効果確認は2024年になりますが、塗りに先立ち2023年の夏にこの塗料を塗装していない/塗装したプレハブで比較試験を行い、その効果を確認してい

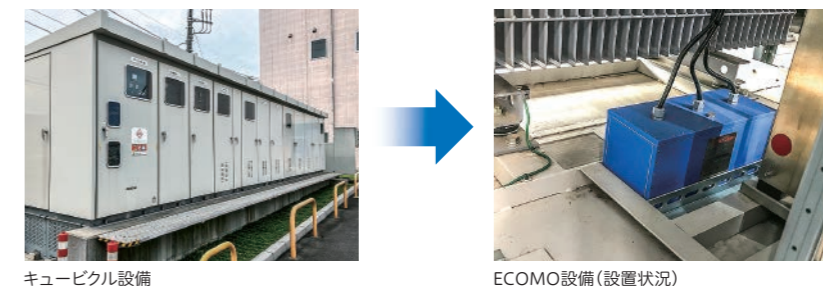
ます。この時の結果が再現できれば、電力使用量の削減およびCO₂排出量の削減が期待されています。

■ユニットハウスでの断熱塗料検証



入間工場にECOMO(節電ユニット)設備を導入(日本)

電力の送電を潤滑化しロスを最大限減らす目的で ECOMO の導入を行いました。



守りのCSR活動～企業としての責任～

環境保全への取り組み

▶緑化運動の推進(タイ、ベトナム(ハノイ・ホーチミン)、インド)

CO₂排出量をゼロにすることはできないため、カーボンニュートラルに向けてはCO₂を何らかの方法で吸収する活動も必要となります。

この中で当社グループは植林や植栽、整備などの緑化運動を積極的に展開しています。



工業団地内の植樹活動に参加(タイ) 事業所の敷地内に植栽(ハノイ) 植樹イベントに参加(ホーチミン) 植栽の整備(インド)

廃棄物量削減に向けての取り組み

当社グループは2023年の経営指標として、2022年比で30%の廃棄物量削減を掲げて取り組んできました。これらの活動を通じ

2023年は経営指標の廃棄物量の前年比30%削減を達成しました。ここでは、日本拠点における活動事例について記載します。

▶廃塗料の排出削減

廃塗料を廃溶剤に混合して溶剤分を再生することでトータルの廃棄物量を削減しました。



以前の廃塗料廃棄状況 塗料と容器の仕分け作業

▶廃溶剤の排出削減

蒸留装置導入により使用済みの溶剤を再生し、廃溶剤量を削減しました。



溶剤蒸留装置 廃溶剤 蒸留後洗浄液

▶廃汚泥の排出削減

塗装ブース循環ろ過装置の採用により、ブース洗浄回数の削減および排出汚泥量を削減しました。



塗装の様子 塗装ブース 塗装ブース循環ろ過装置

▶廃プラスチックの排出削減

不要になった塗板を必要とする教育機関などに送付し、活用いただくことで廃プラスチック量を削減しました。



クリスマス製作 携帯電話 木のネームプレート

▶廃木パレット、廃ドラム缶の排出削減

損傷した木パレットを解体し、テーブルやベンチとして再生し、ネットで販売しています。また原材料が入っていた小型ドラム缶に木パレットを解体した木材を組みあわせ、ツールとして再生し、ネット販売することで、それぞれの廃棄量を削減しました。

産業廃棄物のアップサイクル事例



廃棄パレット 主に運搬に使用される木パレットの再利用 年約5.5トン廃棄していた木パレットの一部を解体し、テーブルやベンチとして再生しました
ペール缶チェア 原材料ペール缶の再利用 天面に座面となる木板をおきツールとして再生しました

廃棄物量削減の現状と課題

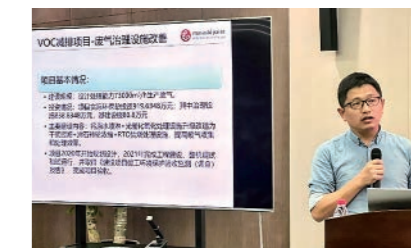
当社グループは、金属などの排出時に金銭が戻る、いわゆる有価物以外を廃棄物と定義しています。同じ廃棄物であっても分別を細分化することでリユース、リサイクルをすることができ、資源の節約につながります。入間工場では、廃棄物を17科目に分類してこの活動に取り組んでいます。しかしながら海外拠点では社内で細かく分類して排出しても、処分方法が整備されて

いないので一緒にされるケースがほとんどです。廃棄物問題は環境問題の大きなテーマであり、いずれ海外拠点でも日本と同様の仕組みが確立されると考えています。各拠点で廃棄物処分の情勢変化をいち早く察知して、「ゴミではなく資源」となる廃棄物排出に努めていきます。

その他海外拠点の環境保全への取り組み事例

▶VOCsの処理設備導入(中国・蘇州)

蘇州拠点では約9,200,000元(日本円で約1.9億円)を投資し、VOCsの排出量を低減するため、処理施設を導入しました。この活動で政府より要請を受け、関係者に対してプレゼンを行いました。また地元TVから取材を受け、その様子はニュースになりました。



プレゼン風景



地元TVニュース(実際のTV画面より)

守りのCSR活動～企業としての責任～

品質・安全(化学物質管理)への取り組み

塗料製品の配合設計は、お客様の要求事項に合致するように行います。初期の時代における品質は物理的特性に対する要求が主体でしたが、現在の品質に対する要求は化学物質に起因する環境特性も含み、対応すべき幅が広がっています。当社グループは品質の確保と化学物質管理に精力的に取り組む、お客様やその先の消費者様に安全・安心してお使いいただけるよう努めています。

“品質への取り組み”でめざすゴール

顧客満足度を高めるため
品質損失額を極小化する

品質に対する取り組み

ISO9001は下に示したように各拠点で認証を取得していますので、拠点ごとに品質方針の表現が異なります。下記には一例として、日本拠点の品質方針を記載しました。

品質方針(武蔵塗料:日本)

品質理念

武蔵塗料は、会社全体の品質の向上に努め、工業用塗料の安定品質提供により、顧客満足度を高める為に事業活動と品質活動を継続します。

活動指針

- 我々は、顧客要求事項並びに法的要求事項に適合した製品の提供と、品質マネジメントシステムの有効性の継続的改善に積極的に取り組み、顧客満足度の向上、並びに利害関係者との信頼関係構築と発展に努めます。
- 我々は、生産活動および販売活動について品質目標を設定し、定期的に見直しを行い、計画的に改善活動を推進します。
- 我々は、改善活動を通し生産部門に於ける作業工程の安定性確保並びに工程異常、不合格品の発生防止、営業部に於ける顧客要求への適合性の確保並びに不満足、不具合の発生防止に全員で取り組み、安定品質提供の体制と顧客満足向上の体制を確立します。
- 我々は、技術開発に取り組み新たな顧客ニーズへのより高品質な適応を目指します。
- 我々は、品質方針を全従業員に浸透させる為に、社内に掲示、品質方針カードの配布などにより伝達し、職場内の教育、ミーティングにより周知させ、密接に関連する利害関係者が入手できる環境を確保します。
- 我々は、品質方針の適切性を維持できるように、原則毎年2月、並びにマネジメントレビューでの指摘、組織上の変更などあった場合、適宜見直しを行います。

▶当社グループのISO9001認証取得状況

認証取得済み	日本、韓国、中国(天津・蘇州・中山)、マレーシア、インド、ベトナム(ホーチミン)、タイ、インドネシア、ハンガリー
認証取得計画中	中国(重慶)、ベトナム(ハノイ)

“安全(化学物質管理)への取り組み”でめざすゴール

- ①化学物質法規制を順守した安全な設計開発体制を確立し維持する
- ②お客様に当社製品に含有する化学物質情報を適切に伝達する仕組みを構築する

安全(化学物質管理)に対する取り組み

2023年に、化学物質管理への取り組み姿勢や考え方を明確にするための「化学物質管理方針」を策定しました。

化学物質管理方針

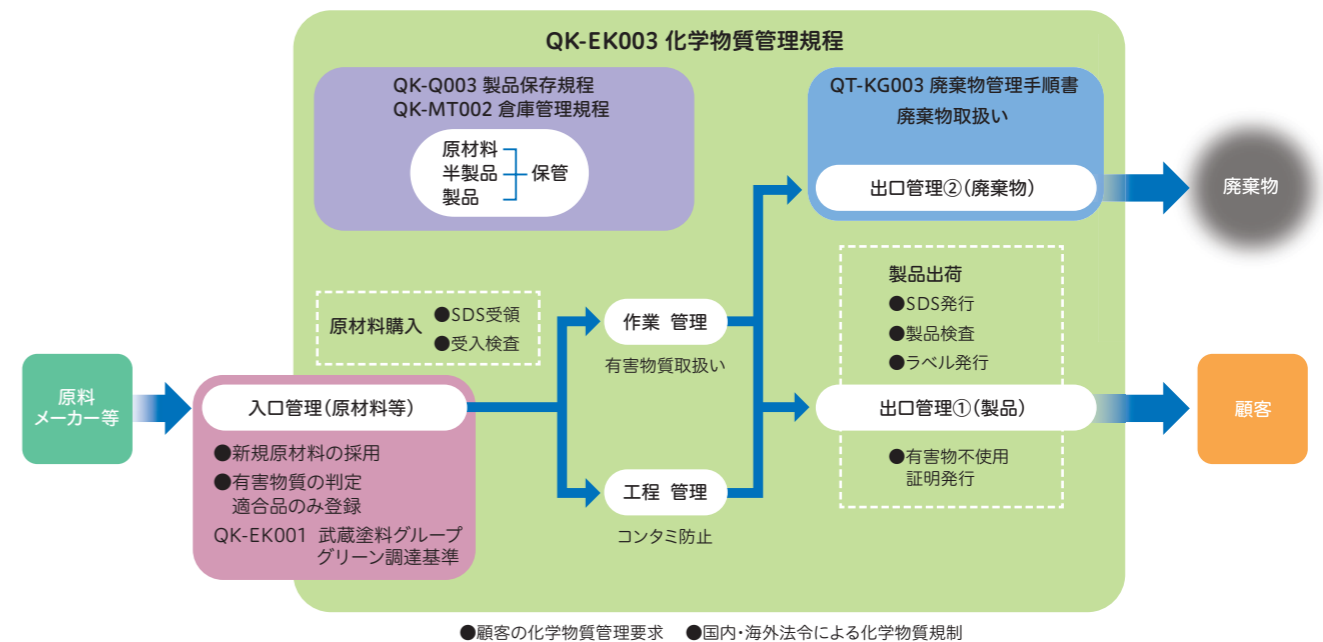
武蔵塗料グループ(以下当社と略)は、塗料を製造・販売する企業として、SDGsにかかげる「つくる責任、つかう責任」からも安全・安心な製品の創出や製造は欠かすことのできない命題と捉えています。

当社の製品をお客様や最終消費者様に安心してご使用いただけるように、また当社の従業員が安全に製造していくために、化学物質管理は当社にとって重要な取り組みの一つです。

1. 当社は、当社製品のライフサイクルを通じて、化学物質に関わる人及び環境に対し、より安全な化学物質管理を構築します。
2. 当社は、化学物質関連の法規制、顧客要求事項を順守します。
3. 当社は、当社製品に含有する化学物質情報を適切に顧客に伝達します。
4. 当社は、より適切な化学物質管理を行うため継続的に改善します。
また、当社製品のライフサイクルにかかわる人に対しての健康被害防止や環境汚染防止に努めます。
5. 当社は、化学物質管理への理解と意識向上のため、従業員に教育や啓発活動を実施します。また、取引先企業様にも理解と協力を求めます。

▶化学物質管理体制

■武蔵塗料の化学物質管理 体系図



守りのCSR活動～企業としての責任～

コンプライアンスへの取り組み

当社グループはコンプライアンスに「法令順守」だけでなく、社会規範・社会良識、地域の慣習、ステークホルダーの利益・要請、および自社のルールに従うことなども含めています。よって、企業活動すべてにコンプライアンスが存在するといっても過言ではありません。当社グループも社会を構成する一員としてコンプライアンスの順守に責任をもって取り組みます。

“コンプライアンスへの取り組み”でめざすゴール

- ①2030年までに全グループを対象としたコンプライアンス確認体制を構築する
- ②不正の発生を防止する（ガバナンス）経営体制を実現する

コンプライアンスに対する取り組み

当社グループは2023年に、コンプライアンスへの取り組み姿勢や考え方を明確にするための「コンプライアンス方針」を策定しました。

コンプライアンス方針

武蔵塗料グループ(以下当社と略)は、当社事業と関係する各国の法令を順守するのみならず、各地域の社会規範や慣習を尊重し、また当社が独自に定めた社内規則も順守することで、社会と良好な関係を維持しつつ、社会の持続可能な成長に貢献していきます。

1. 人権、労働安全衛生、環境、品質、化学物質管理、情報セキュリティ、BCPIについては、別途定める各項目の方針に従って行動します。
2. 公正取引・倫理にかかる事項
 - 1) 当社は、当事国の公官庁関係者と、その地域の法令順守や慣習を鑑み、責任をもった行動をします。また、相手が民間企業の関係者の場合は、過度な贈答や接待、および恐喝を行いません。当社の業務における横領行為は一切禁止とし、発見した場合は厳重に対処します。
 - 2) 当社は、カルテルや談合など公正な競争や取引を妨げる行為は行いません。また、製品に関する不当表示も行いません。
 - 3) 当社は、外部や内部に対して、当社の企業価値を正しく判断いただくために、正確な情報開示に努め、虚偽の情報開示は行いません。
 - 4) 当社は、他社の知的財産を侵害しないように、また当社の知的財産を保護するために、知的財産管理に取り組みます。
 - 5) 当社は、反社会勢力との接触は行いません。また、関係の途中で相手方が反社会勢力と判明した場合にはその関係を断ちます。
 - 6) 当社は、他者への誹謗・中傷、権利侵害は行いません。
 - 7) 当社は、内部通報や内部告発を行った通報者の保護を行い、一切の報復行為は認めません。また、通報内容や通報者の機密性を守ります。
 - 8) 当社は、製品の輸出や原材料の購入に関する各国の法令を順守します。

コンプライアンスに対する当社の現状課題

コンプライアンス順守とは「普通(冷静)に考えて、人や地球に迷惑をかけないこと」ですが、実際には判断を見失うことで問題が発生します。常に意識を維持することが大切なため、当社グループはコンプライアンス方針を補足する下位文書として、「公正取引運用ガイドライン」「知的財産教育文書」「内部通報制

度運用ガイドライン」を設定し、コンプライアンス順守の強化を図っていきます。

また順守状況については、全社組織としてコンプライアンス委員会を設置して相互確認を行う方向で進めていきます。

守りのCSR活動～企業としての責任～

リスクマネジメントへの取り組み

企業活動を行う上では経営に影響を及ぼす様々なリスクに直面します。リスクが顕在化してからでは遅いため、考えられるリスクを抽出し、前もってどのように対応するかを検討する必要があります。当社グループはリスクが顕在化しても経営の影響を最小限にとどめるべく、リスクマネジメントに取り組んでいます。

“リスクマネジメントへの取り組み”でめざすゴール

- ①時代の変化に応じた経営リスクの抽出と対応策の実施ができる体制を構築する
- ②企業防災体制を強化する

リスクマネジメントに対する取り組み

▶経営リスクの抽出と対応策の実施への取り組み

当社グループではリスクマネジメントとして経営層が主体となって取り組む経営リスクと個別の組織(部門)が主体となって取り組む一般的なソーシャルリスクに分けて対応しています。

前者については、ホールディングスの経営管理本部が管轄する全グループを対象とした財務リスク、内部統制リスク、ガバナンスリスクに取り組んでいますが、今後はサプライチェーンリスクにも取り組んでいきます。

後者については、各拠点における品質リスク、環境リスク、労働安全衛生リスク、化学物質リスクや情報流出・漏洩リスクがあり、これらは各拠点の担当部門で取り組んでいます。

以上の取り組みで抽出したリスクは、リスクの評価を行ったうえで、①リスク回避、②リスク低減、③リスク移転、④リスク容認のいずれかの対策を図っています。

▶企業防災への取り組み

企業防災には、災害発生時に従業員や設備の被害を最小限にする施策である「防災計画」と、事業活動の継続と早期復旧のための施策である「事業継続計画(BCP)」があります。

当社グループは毎年「防災計画」に沿って、防災訓練や消火訓練を行い手順の見直しを実施しています。

一方、事業継続計画については、2023年に日本拠点で地震・火災・パンデミックの発生をそれぞれ想定した行動マニュアルを策定しました。今後は訓練などの結果に応じてこの行動マニュアルの見直しを図り、精度を高めていきます。



防災訓練風景

リスクマネジメントに対する当社の現状課題

経営リスクは年々変化し増加しています。特に海外関連のリスクはその幅が広がり判断を見失うと当社のようなグローバル展開を行っている企業では、経営存続の大きな脅威となります。

今後さらにグループ間の連携を強化し、この課題に取り組んでいきます。

情報セキュリティへの取り組み

企業には様々な外部に流出してはならない“機密情報”が多数存在します。お客様や原材料メーカー、協力メーカーなどの取引先様、および従業員に迷惑をかけない、そして当社グループの知的財産を保護するためにも情報セキュリティへの取り組みは欠かすことのできないものです。

“情報セキュリティへの取り組み”でめざすゴール

情報が流出・漏洩しない、強い情報セキュリティ体制を構築する

情報セキュリティに対する取り組み

当社グループは2023年に、既存の情報セキュリティに関する文書類を見直し、情報セキュリティへの取り組み姿勢や考え方を明確にするための「情報セキュリティ方針」を策定しました。

情報セキュリティ方針

武蔵塗料グループ(以下当社と略)は、顧客情報や従業員の個人情報、当社の機密情報などの重要な情報が流出したり漏洩したりすることでの人的・金銭的被害を防ぎ、社会からの信頼を損なわないように、情報管理に対する社会的責任の重要性を認識し、情報セキュリティ方針を策定して、日々の業務において適切な情報管理に取り組みます。

1. 当社は、事業活動における重要な情報が流出したり漏洩したりしないように、これを適切に管理するための有効な手段を講じて、情報セキュリティの維持・向上に努めます。
2. 当社は、情報管理に関する法規制等を順守します。
3. 情報セキュリティの重要性の認識を高め、維持するために、役員および従業員に対し、適切な情報管理に関する教育や研修を行います。
4. 当社は、万が一にも情報セキュリティに関する流出や漏洩が発生し、その影響が顧客をはじめステークホルダーに及ぶと判断した場合には、関係する方々に迅速に報告し、必要な対策を講じます。

情報セキュリティに対する当社の現状課題

どんなにハード面で防御策を講じて、結局は機密情報取扱者の不注意で情報が流出・漏洩する可能性があります。当社グループではハード面の防御策とあわせて情報セキュリティ方針を補足する下位文書として、情報取扱者向けに「情報セキュリ

ティ運用手順」を設定し、情報セキュリティの意識レベルの強化を図っています。この情報セキュリティ運用手順には以下の11項目に関する手順を記載しています。

1. 法律により定められた順守事項
2. 機密情報に関する順守事項
3. ユーザーID、パスワードに関する順守事項
4. コンピュータ機器の使用に関する順守事項
5. 社内ネットワークの利用に関する順守事項
6. インターネットの利用に関する順守事項
7. 電子メールの利用に関する順守事項
8. 生産管理システムの利用に関する順守事項
9. 有害プログラムに関する順守事項
10. 情報セキュリティ上の問題が発生した場合の順守事項
11. 啓発に関する順守事項

▶サステナブルな取り組み：PCの再利用

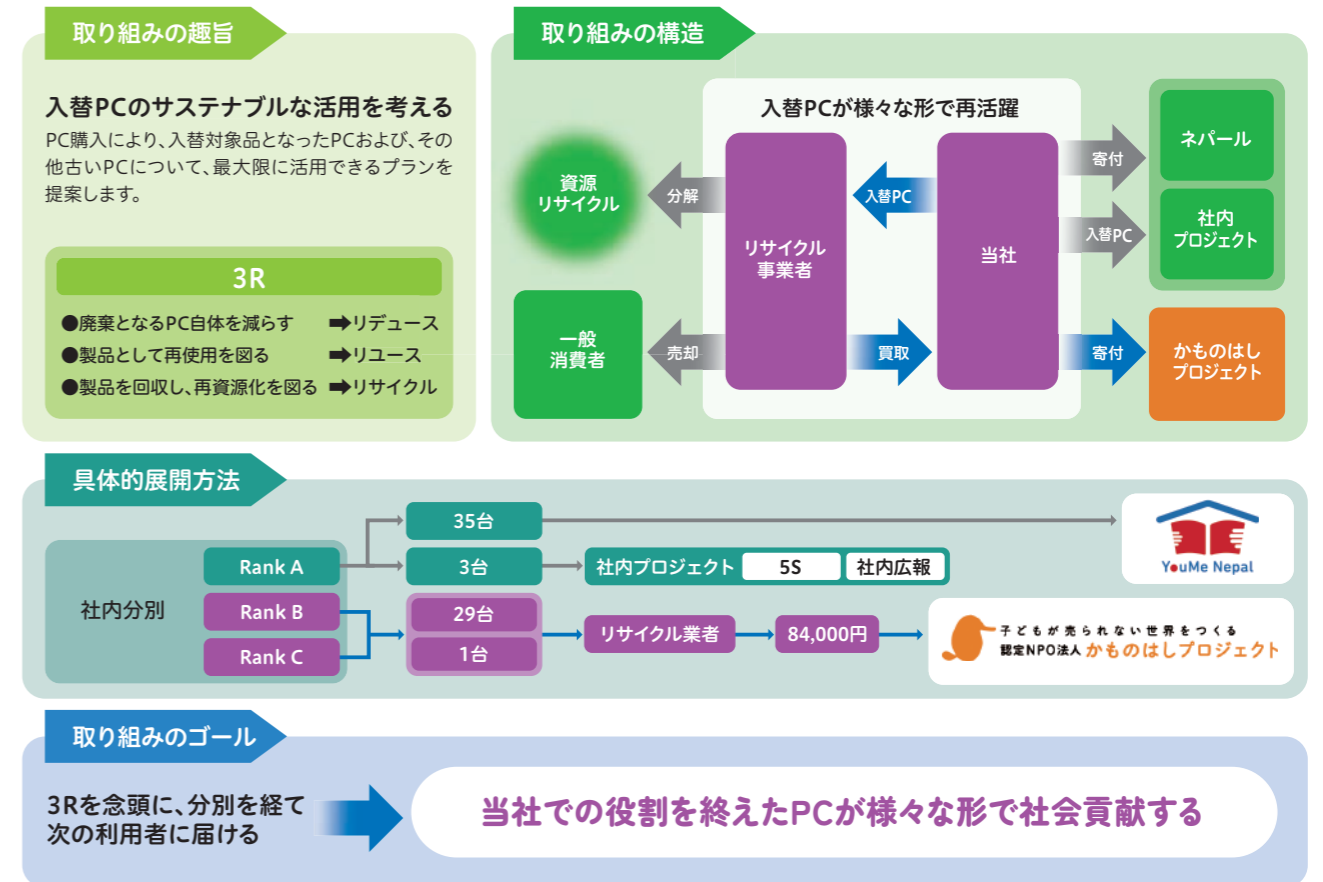
PC本体の技術的な進歩は著しく、日本拠点では定期的に新機種への切り替えを行っています。当社グループのPCはすべて買い取りのため、古い機種は廃棄対象となっていました。

情報システム部はサステナブルな取り組みとして、PCの再利用について検討を行ってきました。2023年は60台を超えるPCを入れ替え、この中の35台はネパールの教育機関に寄付、また

残りのPCのうち社内で再利用可能なもの以外は高価買取可能な業者を選択した上で買い取っていただき、その代金を認定NPO法人かものはしプロジェクトに寄付しました。

なお、寄付や買い取りに際してはデータなどをすべて消去するなど初期化した状態に戻し、情報漏洩が発生しないように慎重に対応しました。

■情報システム部のサステナブルな取り組み



経営目標とCSR・SDGs

サステナブルな社会の実現に貢献する			
ENVIRONMENT 環境	DIVERSITY & INCLUSION ダイバーシティ&インクルージョン	CO-CREATION 共創	
2025年度に連結売上高200億円、営業利益20億円(10%)をめざす			
方針	環境に配慮した製品・サービスの開発&販売を推進する	事業活動で排出するCO ₂ を削減する	ダイバーシティ&インクルージョンを推進する
CSR活動	【攻めのCSR】 環境重視の商品創出	【守りのCSR】 環境保全	【攻めのCSR】 従業員のウェルビーイングの追求
SDGs	3 気候変動に具体的な対策を 12 つくば 13 気候変動に具体的な対策を	5 働きがいと経済成長 8 持続可能な消費と生産 10 人や国の不平等をなくす	8 持続可能な消費と生産 9 質の高いインフラストラクチャー 17 パートナーシップによる目標達成
グループ経営目標	環境配慮製品割合 75% 2025年目標	電力使用量 ▲1% 2025年目標	女性従業員比率 40% 2025年目標(2021年29%)
			共創案件数 10 件

Voice 責任者の声

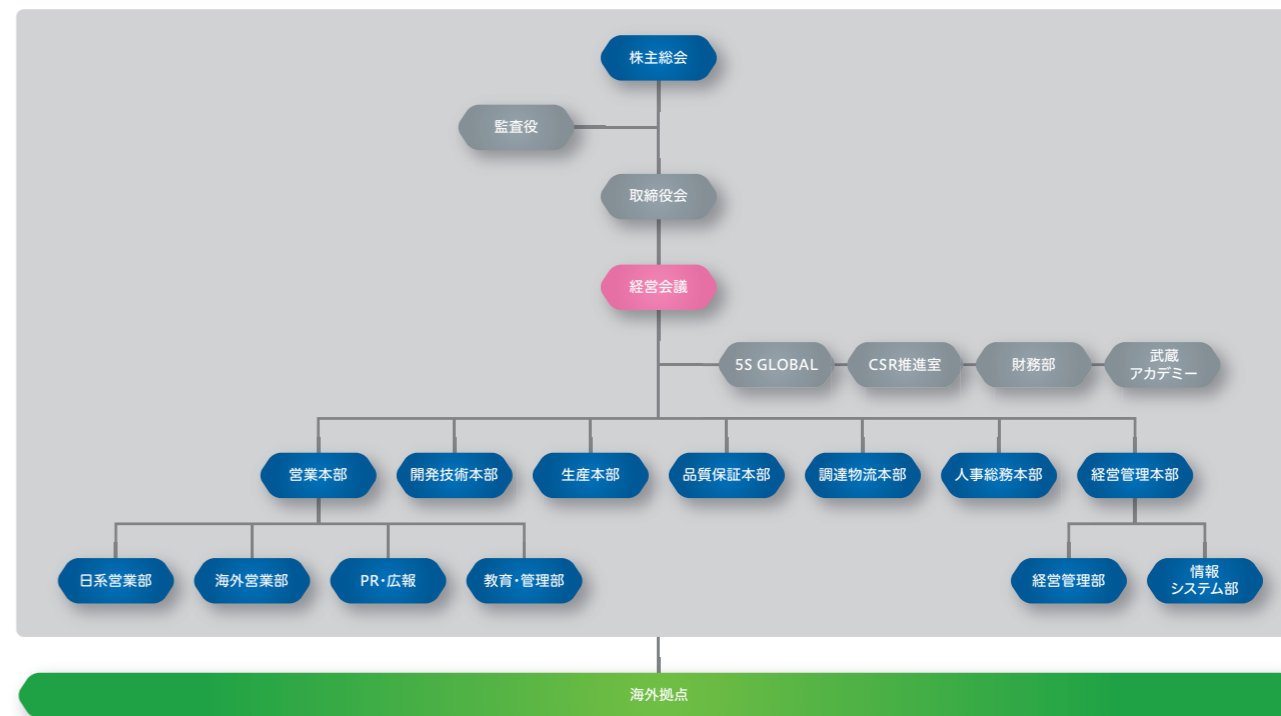
当社グループは「色と機能で世界を豊かに」をパーパスとして、事業運営を通じてサステナブルな社会の実現に貢献していきたいと思っています。グループ経営目標は売上高や利益のみならず「環境」「ダイバーシティ&インクルージョン」「共創」の観点から設定しており、グループ各社が当該目標の達成に向け一丸となって事業運営を行っています。



武蔵塗料ホールディングス株式会社
取締役 **山田 純也**

会社情報

組織図



会社概要

- 商号 武蔵塗料ホールディングス株式会社
Musashi Paint Holdings Co., Ltd.
- 役員 代表取締役 福井 裕美子
- 設立 1958年(昭和33年)6月30日
- 資本金 2,300万円
- 従業員数 216名(グループ合計 1,006名) ※2024.3.31現在
- 拠点数 22カ所
- 本社所在地 〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-30-16 グリックビル
本社代表:03-3985-8118 FAX:03-3985-0947
- 取引銀行 三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行
- 営業種目 自動車、家電製品、AV・OA機器、携帯電話、パソコン等に使用される合成樹脂塗料の製造及び販売
- 主な業界加盟団体 社団法人日本塗料工業会 関東塗料工業組合



musashi paint

発行：武蔵塗料ホールディングス株式会社

〒171-0022 東京都豊島区南池袋 2-30-16 グリックビル
03-3985-8118

編集・問い合わせ先：CSR推進室

hd.gr.csr@musashipaint.com

